ライオン誌(毎月20日発行)第55巻第12号 2013年5月20日発行 昭和33年12月19日付第3種郵便物認可

IN JAPAN Official Publication of Lions Clubs International

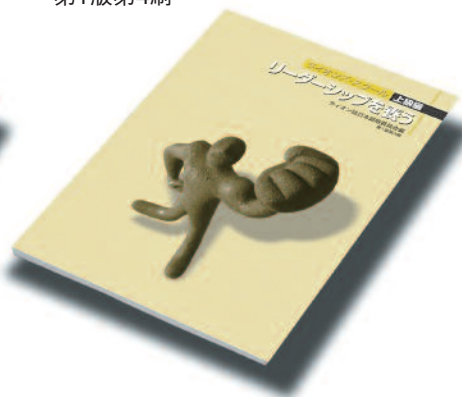
WWW.THELION-MAG.JP JUNE 2013 6

今月のTHEME

メンバーシップ

ライオン誌日本語版出版物

ライオンズスクール・シリーズ

初級編・ライオンズクラブ入門
第3版第3刷

入会したての新会員を対象に、これだけは知っておきたいライオンズクラブの基礎知識をまとめた。併せて「ライオンズ用語集」も収録。
A4判　64ページ　1部400円・送料実費

中級編・クラブ運営の基礎知識
第3版第2刷

クラブ運営の基本を分かりやすく解説。知識を確認したり、セミナーや研修会などでグループ・ディスカッションに利用出来るワークシート付。
A4判　64ページ　1部400円・送料実費

上級編・リーダーシップを養う
第1版第4刷

国際協会の総合的リーダシップ育成プログラムを基に編集。地区役員研修会などの副読本に、またクラブ会長や地区役員の指導力育成に最適。
A4判　64ページ　1部400円・送料実費

※ライオンズスクール・シリーズはいずれも50部以上ご注文の場合、送料無料（ただし、急ぎの場合は実費請求）。
●大口注文割引＝100～499部350円／500部以上300円

※お申し込みは下記注文書をお使いの上、郵送またはファクスでお願いします。
※電子メールの場合は、地区名・クラブ名・お名前・ご住所・お電話番号を明記し、office@thelion.jp宛てにご注文ください。
※ライオン誌ウェブマガジンからオンラインでのご注文も承っています。下記のライオンズ文庫注文フォームからどうぞ。
https://www.thelion-mag.jp/modules/inquirysp/index.php?op=2
※請求書・振込用紙は、品物に同封します。（大口注文の場合は別便で送付）

〒104-0045　東京都中央区築地2-2-1　築地細田ビル7階　ライオン誌日本語版事務所（FAX：03-3546-2630）

キリトリ線

ライオン誌日本語版出版物　注文書

●ライオンズクラブ入門…………□部
●クラブ運営の基礎知識…………□部
●リーダーシップを養う…………□部
●創刊55周年記念特別セット…………□セット
（『ウィ・サーブ』『ライオニズムよ永遠に』『ライオン誌日本語版創刊号復刻版』の３冊入り）

地区名 33 -	クラブ名	お名前（クラブで注文の場合は不要）
ご住所 〒 -		お電話番号

LION MAGAZINE IN JAPAN
June 2013, Vol.55 No.12

We Serve CONTENTS

2013年6月号
●表紙シリーズ
日本の風景 39
千葉県松戸市
本土寺
写真／鈴木秀晃

本誌は環境に配慮したFSC®認証紙を使用しています。

A Message From Our President

Wayne A. Madden
Lions Clubs
International President

計画を怠ると
失敗を招く

話題となった映画「リンカーン」の中で、リンカーン大統領は、理想家ながらも現実離れした下院議員、タデウス・スティーブンスと論戦を交わしています。二人とも奴隷制度の廃止を願っていますが、リンカーンはスティーブンスの強硬なやり方では逆効果だと考えているのです。彼はスティーブンスに次のように警告します。

「コンパスが真北を示したとしても、途中に沼地があることまでは分からない。やみくもに突き進めば、沼に捕らわれて目的地にたどり着くことは出来ないだろう」

私たちライオンズは、自分がどこを目指しているかを知っています。その願いは奉仕することですが、計画や準備をせずに突き進んでも、最大限の効果は得られません。そのためにも明確な目的と方針が不可欠です。クラブが成功すると決めてかかるのでなく、その結果に確実に結び付く手順を踏む必要があるのです。

私がクラブに奨励してきた4回の「ピットストップ」は、定期的にニーズを見極め、目標を設定し、進捗状況を評価することで力強いクラブを維持するための方法です。来年度以降も、引き続きこのプロセスを採用して頂ければ幸いです。

また、ソーシャルメディアを取り入れることも大切です。それが最先端のコミュニケーション手段となった時、私もどうやら遅れをとっていた世代の一人です。子どもや孫には追いつけそうもありませんが、私も2009年からフェイスブックに登録し、今年は国際会長として、世界各地のライオンズとのさまざまな情報のやりとりを楽しんできました。

国際協会が最近、ソーシャルメディアの使用状況を調査したところ、フェイスブックやツイッターを通して交流し、それぞれの奉仕情報を広めている会員が増えています。私たちは今以上にこうしたコミュニケーション手段の活用を高めていくべきです。ライオンズは地域社会の一員であることに常に誇りを抱いてきました。今日のデジタル社会でも、ソーシャルメディアを含めた可能な限りの方法で地域社会と関わり合わねばなりません。私たちは主流を行く存在であり、現代のコミュニケーションはデジタルの高速道路を流れています。

数年前であれば、私たちは玄関先や裏庭で隣人と集い、関係を築いていたことでしょう。もちろんそうした交流も続けるべきですが、オンラインでも頻繁に会話や情報を交わして会員同士の絆を深め、ライオンズの存在とその重要性をもっと社会に広めていこうではありませんか。コミュニケーションは連帯感を強めます。奉仕の世界では、デジタル社会を十分に取り込むことでライオンズクラブの勢力圏を拡大することが出来るでしょう。

2012-13年度国際会長
ウェイン･A･マデン

THEME

メンバーシップ

エクステンションの成功例と、世代交代がうまく進んだことで
会員増強と活性化が図られたクラブを取材。
また昨年度、初の女性キャビネット幹事として
地区運営に貢献したお二人に話を聞いた。

●エクステンション成功例

奉仕の輪を広げる新クラブ結成

会員減少に悩むクラブが多い中で、今はエクステンションどころではない。そんな声が聞こえてきそうだ。しかし、日本では2005-06年度に初めて解散クラブの数が新結成クラブの数を上回って以来、毎年クラブが減り続けており、手をこまねいてばかりはいられない。クラブが解散に向かう原因の一つには、時代の変化に対応しきれなかったことがあるだろう。ここでは、若い世代や女性を引きつける新しいクラブの結成で、ライオンズの奉仕の輪を広げた成功例を紹介する。

①宮崎県・高鍋舞鶴、西都・西米良ライオンズ

ライオンズの灯を地域に再び

宮崎では、解散によってライオンズの灯が消えた二つの地域に、再び新たなクラブが結成されている。2010年4月に結成された高鍋舞鶴ライオンズ（津曲智邦会長／20人）と、昨年6月に結成された西都・西米良ライオンズ（甲斐浩志会長／19人）だ。

宮崎県では1960年4月に県内で最初に結成された宮崎ライオンズが、それから1年余りの間に次々に10クラブのエクステンションに成功した。まさに破竹の勢いの中、高鍋ライオンズは県内6番目、西都ライオンズは8番目のクラブとして61年4月に結成。伝統あるクラブとして、地域に根差した活動を続けてきた。西都ライオンズは92年に西都はにわライオンズを結成させ、西都市内のクラブは2クラブになった。しかしそれから7年後の99年8月、結成40周年を目前に西都ライオンズが解散。07年には西都はにわライオンズ、その翌年には、結成50周年を2年後に控えた高鍋ライオンズが、パタパタと相次いで解散してしまった。周辺クラブのメンバーには、これといった明確な理由は見当たらない。高鍋の場合は30人近い会員がおり、その半数近くが存続を希望していたが、解散の道を選んだ。

「ライオンズクラブに対する倦怠感のようなものがあったのかもしれない」

2010・11年度337複合地区議長を務めた増田十郎（宮崎オーシャン ライオンズ／07・08年度337・B地区ガバナー）はそう推測する。高鍋は名君と名高い上杉鷹山を輩出した秋月家3万石の城下町で、文教の町としての伝統を受け継ぎ、自尊心の高い気風を持つ。そうした誇り高さが、かつての勢いを失ったクラブを倦む心境につながっていったのかもしれない。

一方、日本最大の古墳群、西都原古墳群がある西都市は人口3万4千人と、人口では県内で7番目の規模だ。その西都市や高鍋町にライオンズクラブがないのはおかしいと、行動を起こしたのが増田だった。

まず取り組んだのは増田の出身地でもある高鍋町だ。人脈を駆使して会員候補をリストアップし、直接足を運んでは入会を勧めていった。粘り強い交渉の努力は、クラブ結成に至るまで1年2カ月にわたり続いた。西都市の場合は、元市長の的確な助言を受けてリストを作り、一人ひとり顔を合わせての説得を続けた。

「1日がかりで訪ね歩いた末、全員に断られた時には、帰りの車内の空気が重苦しかった」と、増田と共に通い詰めた吉富直誉（宮崎ライオンズ）は振り返る。

高鍋でも西都でも、解散前に在籍していた元会員にはあえて声を掛けることをしなかった。新しく生まれるクラブに、以前のクラブの論理を

西都原古墳群には高塚古墳311基が現存。西都原御陵墓前広場は春の花まつりには桜と菜の花の競演、秋の古墳まつりはコスモスで彩られる。西都・西米良ライオンズは祭に合わせ清掃活動を行っている

小高い丘の上にある高鍋大師の石像約750体は、この丘にある持田古墳群の霊を慰めようと、一人の町民が半生を掛けて刻んだもの。高鍋舞鶴ライオンズはここを桜の名所にしようという観光協会の呼び掛けに応えて植樹に取り組んでいる

持ち込まれたくなかったからだ。そのため、高鍋ライオンズクラブ解散後に他クラブへ転籍していた会員1人を除けば、高鍋舞鶴ライオンズクラブも西都・西米良ライオンズクラブも元会員はゼロで、40代から50代が中心の会員構成となった。

もう一つ両クラブに共通しているのが、アクティビティがクラブの求心力になっている点だ。高鍋舞鶴ライオンズクラブが結成された時期、県内では口蹄疫の発生が深刻な被害をもたらしていた。クラブは10年4月に結成式を行った後、年度内に予定していたチャーター・ナイトを延期。町内の自主消毒ポイントでの消毒作業に取り組んだ。この活動がライオンズとしての意欲を奮い立たせた。

「結成間もないながら、今やらずにいつやるのかという強い意識がありました。この活動で会員の気持ちが一つになったと思います」（初代会長ライオン児玉芳雄）

その後も、献血や清掃、地元の祭への出店など町ぐるみの活動に積極的に参加し、町内の他の団体と連携を深めながら活動している。

西都市と、隣接する西米良村の会員とで結成された西都・西米良ライオンズクラブでは、結成を前に自分たちは何をするクラブなのかということをよく話し合った。

「以前のクラブが出来た頃と違い、現在は多くのNPOや市民グループが活動しています。何をする団体なのかという点が明確でなければ人は集まりません」（後口昌賢幹事）

クラブは労力アクティビティを中心に活動していこうという考えで一致し、春の西都花まつりや秋の古墳まつりなど多くの観光客が集まる祭に合わせて、清掃活動などに取り組んでいる。

「今回は宮崎、宮崎オーシャンの2クラブによる合同スポンサーでしたが、数クラブが協力して取り組めば、もっと容易に成果が出せるはずです。新クラブで核となる会員をしっかり見定めることも重要です。本気になって汗をかけば、エクステンションは難しいことではありません」

2クラブの結成に尽力したライオン増田はそう断言する。

若手の熱意が高じて結成にこぎつけた福井の新生4クラブの会長と木村地区ガバナー（中央）

若手が牽引する新生4クラブ

② 福井Web、福井SOUTH、福井WEST、福井EASTライオンズクラブ

福井では熱意あふれる若手が、同世代の感覚に合った新しいクラブを作ろうと奔走し、時期を同じくして四つの新クラブが生まれた。

「自分の友人や知人を誘いたくても、既存のクラブではさまざまな意味でハードルが高い。ハードルをもう少し下げられたら、多くの若い仲間が加わってくれるはずなのに……」

共に40代のライオン掛谷龍一とライオン近藤靖至は、福井中央ライオンズクラブに入会してから数年、そんな歯がゆい思いを抱いていた。「ハードルの高さ」とはすなわち「重さ」だとライオン掛谷は話す。伝統や格式を大切にするあまりの重苦しさや、会費負担の重さなど、既存のクラブの体質は、若い人たちにとって「重過ぎる」と感じられた。同世代やそれより若い人たちが参加しやすい、もう少し「軽い」クラブを作りたいと、2人は福井中央ライオンズクラブに新クラブの結成を提案した。

きっかけは2012年3月の結成50周年式典だった。地元334-D地区の高田順一国際理事が、来賓あいさつの中でエクステンションの必要性

を述べ「2クラブ同時に新結成が出来たらすごいこと」と話した。「それならやってみよう」と、掛谷と近藤がそれぞれ核になって2クラブ同時に結成を目指すことにした。そして昨年12月、どちらも21人の会員を集めて、福井SOUTHライオンズ（掛谷龍一会長／21人）、福井WESTライオンズ（近藤靖至会長／21人）を結成。平均年齢51歳の会員は、30代から60代まで、企業経営者がいれば主婦もいるという多彩な顔ぶれになった。

意欲ある若手の提案に賛同してスポンサー・クラブとなった福井中央ライオンズの決断を、334-D地区（富山県・石川県・福井県）の木村正明地区ガバナーは高く評価する。

「どのクラブも会員増強に苦労する今、エクステンションは周囲のクラブに諸手を挙げて歓迎されるものではありません。今回のエクステンションによる転籍は2人だけでしたが、福井中央ライオンズは次年度地区ガバナーを輩出する大切な時期で、本来ならば自クラブの増強を図りたかったはずです。そうした中でライオンズの将来を見据え、エクステンションの道を選択された山下勝也会長始めクラブの皆さんの英断に敬意を表します」

この福井SOUTH、福井WEST両クラブの結成に向けた動きに触発されて、もう1クラブの結成準備も進んでいた。地区キャビネットをスポンサーに、かつて福井中央ライオンズに所属していた竹内ら元会員5人を中心に結成された福井EASTライオンズ（竹内與幸会長／20人）だ。竹内にそのアイデアを持ち掛けたのは、掛谷だ。

「クラブを退会していった人の中には、ライオンズに非常に熱心だった人が少なくありません。ライオンズへの理解もあるし、もし意欲のある元会員が集まって新しいクラブが作れたなら、きっといいクラブが出来ると以前から考えていました」

福井SOUTH、福井WEST、福井EASTの3クラブは、今年2月20日に合同でチャーター・ナイトを開催した。そこで発表された記念事業は、3クラブの全会員が5年を掛けてLCIFへ千ドル献金（メルビン・ジョーンズ・フェロー）をするというものだった。ライオンズを深く理解することにもつながるし、新しいクラブだからこそ出来ると考えたと言う。

3クラブが目指した若い世代が参加しやすいクラブとは、具体的にどのようなものなのだろうか。運営面では会費を年8万円と低く抑え、運営費を極力削減。定例会は月1回で、もう1回はアクティビティ実施に充てたり、必要に応じて不定期で開催する。アクティビティではアイデアと行動力を駆使しながら、費用の掛からない事業を実施していく方針だ。

これら3クラブより3日早く、2月17日にチャーター・ナイトを迎えた福井Webライオンズ（西井伸哉会長／26人）も、平均年齢39・8歳という若々しいクラブだ。結成の発端は東日本大震災だった。敦賀みなとライオンズの元会員だった西井は、被災者のために何か出来な

ラムサール条約に登録された敦賀市の中池見湿地。5月頃にはサワオグルマが一斉に花を開く。
福井Webライオンズは保全活動に継続的に取り組むことにしており、チャーター・ナイト記念事業で案内板を設置した

いかと考える中で、新しいクラブの結成を思い立った。震災以降、報道などを通じて義援金がなかなか被災者の元に届いていない状況を耳にし、奉仕活動に取り組むならば、行動力とネットワークを備えたライオンズクラブでと考えた。それから結成まで1年半余りの準備期間を要したが、かつて在籍した敦賀みなとライオンズのメンバーで、2011－12年度334複合地区議長を務めた岡本正治の助力も得ながら、地区キャビネットをスポンサーに、昨年12月に結成式を迎えた。

福井Webライオンズの特徴は、そのままクラブ名に表れている。クラブの所在地は敦賀市だが、会員26人中6人は福井市やその周辺在住。そのため、従来の市町村を単位とする枠組みを超えてクラブ名の「福井」は福井県を指している。そして、離れた地域にいる会員が例会やクラブ運営を円滑に行うため、インターネットの「Web」を活用する。今後の展開として、福井市周辺の会員を更に増やしてクラブ支部を発足させることも考えていると言う。

334－D地区は今年度、新しい4クラブで構成する新ゾーンを設けた。「ともすれば、形式や運営にとらわれて本末転倒となりがちな面もある中、この4クラブは自分たちは何のために活動するのか、しっかり核心を突いて考えています。彼らがその本領を十分に発揮するためにも、新しいゾーンを設けることが望ましいと考え、今回、ほぼ同時期に4クラブが結成されたことでそれが可能になりました。ゾーン内4クラブが切磋琢磨して成長してくれることでしょう」

と、木村ガバナーは期待を寄せている。

③神奈川県・厚木マルベリーライオンズ

職域クラブ支部から新クラブへ

神奈川県厚木市では、職域を同じくするメンバーで発足したクラブ支部が1年後に独立。新クラブとして歩み出した。昨年9月に結成された厚木マルベリーライオンズ（北村利根会長／37人）だ。

県のほぼ中央に位置する厚木市は人口22万人。市内ではこれまで三つのライオンズクラブが活動してきた。その一つ、厚木さつきライオンズ（矢嶋秀昭会長／45人）が女性会員12人でマルベリー支部を発足させたのは、2011年6月のことだ。

その前年9月、同じ330－B地区内に山梨ニューセンチュリーライオンズが結成された。平均年齢27歳という若さで、病院の職員を会員に結成された企業内クラブの仕掛け人は、当時地区の会員増強維持エクステンション委員長だった川手寅平（今年度第1副地区ガバナー）。その同じ委員会で委員を務めていたのが、今年度厚木さつきライオンズ会長の矢嶋だった。先輩メンバーから「エクステンションこそ最大の奉仕」と教えられて育った矢嶋は、以前から新クラブ結成に強い熱意を持っていた。そこに川手が主導した企業内クラブという新しいアイデアの刺激を受けて、自身が経営する化粧品販売会社の傘下にある美容サロンのオーナーによるクラブが作れるのではないかと考えた。

「普段から人の役に立ちたいという気持ちや、感謝の気持ちを大切にしている彼女たちには、奉仕の心が備わっていると感じていました。また

経営者としての社会勉強の意味でも、ライオンズでの経験はプラスになると考えました」（ライオン矢嶋）

　新クラブを立ち上げようという当初の構想は、間もなくクラブ支部の発足に軌道修正された。クラブ支部の活動を新クラブ結成に向けた準備プロセスと捉えて、しっかりとした基盤堅めをしようというのがその狙いだった。

　クラブ支部は少なくとも5人の会員で発足することが出来、クラブ結成の条件である20人の会員を集めるのが難しい地域でもライオンズの活動を可能にするプログラムだ。支部会員は既存の親クラブの正会員となるが、例会やアクティビティには支部独自の取り組みが出来る。もともとは島嶼部など人口の少ない地域での発足を想定して始まったプログラムだが、会員二世など若年層だけで構成したり、趣味の集まりのメンバーで構成したりと応用されて、日本には70余りのクラブ支部が発足している。目的はさまざまで、例えば親クラブの会員予備軍と位置付けるケースがあれば、新クラブ発足を前提に発足するケースもある。

　前述の通り当初から独立を目指していたマルベリー支部は、親クラブの例会やアクティビティの他、他クラブの例会や周年行事にも積極的に参加し、クラブ運営について学んでいった。更に独立するまでの1年間に10回余りのオリエンテーションを開き研修を重ねた。厚木マルベリーライオンズクラブのガイディング・ライオンを務めるライオン高橋忠臣（厚木さつきライオンズクラブ）は、新クラブが順調にスタート出来たのはこのオリエンテーションの成果だと話す。

「初めは何も分からなかった彼女たちでしたが、オリエンテーションを繰り返すうちに理解を深め、ライオンズに対する熱意も高まっていきました。核となるメンバーがしっかりしていたことで、独立してからもモチベーションが高く、委員会活動も非常に活発に行われています」

　クラブ支部会員はこうした研修と平行して会員を募り、候補者には共にオリエンテーションに参加してもらった。新クラブの会員候補は職域に限定することなく、友人や知人などに広く声を掛けていった。

「ライオンズクラブは奉仕活動を行うばかりでなく、自身の視野を広げる社会勉強の場でもあると考えています。ですから新しいクラブには、男性や異なる業種の人たちにも加わってもらいました」（初代会長・ライオン北村利根）

高齢者への美容セラピーなど、厚木マルベリーライオンズクラブによる会員のスキルを生かしたアクティビティ

　厚木マルベリーライオンズクラブのチャーター・メンバーは、男性9人を含む会員37人。形にとらわれることなく、自分たちの身の丈に合ったクラブ運営を目指し、会費は月額5千円と低く抑えている。とはいえ質素一辺倒というわけでもなく、ドネーションには皆積極的だ。親クラブのメンバーが例会でスマートにドネーションしていた姿を真似て、金額は少なくても、気の利いた理由を見つけてドネーションすることが楽しいと言う。アクティビティにおいても、会員の専門分野を生かした高齢者施設入居者への美容セラピーや、厚木市里親会への支援など、自分たちらしい活動を模索し取り組んでいる。

「新しい発想でチャレンジしていく新クラブには、これからいかようにも変化していけるという可能性を感じます。私たち親クラブにとってもそれが大きな刺激となって、プラスの影響が出ていると思います」（厚木さつきライオンズクラブ幹事・ライオン鈴木泰堂）

　クラブ支部プログラムを活用した厚木マルベリーライオンズクラブの結成は、地区全体でも大きな注目を集めており、一つのモデル・ケースとなりそうだ。（取材／河村智子）

●会員増強成功例❶東京世田谷ライオンズクラブの場合

若手が若手を呼び込む好連鎖

新規事業と地区の垣根を超えた交流でクラブ全体が活性化
若い会員たちが次々と同世代の友人・知人を招請し始めた

この5年で、クラブの雰囲気が大きく変わったと言われる東京世田谷ライオンズクラブ（石上真司会長／43人）。しかもそれは、クラブの中だけではなく、他クラブからも指摘されるほどの目立った変化だったようだ。

以前は厳格なクラブで、例会は基本に忠実、会場前方には大ベテランが居並ぶテーブルがあり、新会員には近寄りがたい雰囲気を醸し出していた。2004年に入会した石上会長は、ベテランの会員とは話も出来ず、萎縮していたと言う。同じ年に入会した畠山勝弥幹事も、やはり厳格なクラブの雰囲気にのまれ、退会の文字が頭に浮かんだこともあったと打ち明ける。

変化の兆しが見えたのは結成45周年を迎えた08・09年度だった。この年7月に入会した進藤義夫ゾーン・チェアパーソンはこう振り返る。

「会長は年度の目玉事業として、障害者を対象とした新規アクティビティを計画していたんですが、新会員の私が障害者支援の仕事をしていることを知り、障害者団体との打ち合わせに同行を求められました。そこで専門的な立場から率直にお話をさせて頂いたところ、会長が『進藤君、実行委員長をお願いします』と。思わず『ええ〜っ!?』って言っちゃいました（笑）。入会してまだ1カ月ですよ。既成概念にとらわれない、非常に柔らかい発想の会長でした」

結局、実行委員長を務めることになったライオン進藤は、事業対象の障害者団体へ何度も足を運び、企画を進めていった。「新人なのにここまでやっていいのかなと思いながら、会長の後押しを受け、企画から実行までやらせてもらいました」（ライオン進藤）。自分たちの目で見て考え、実行していくという事業スタイルが、もっと積極的に動きたいと思っていた若手の会員たちに受け入れられた。

また、ライオン誌主催の若手会員フォーラムに参加した会長、幹事が、全国の同世代の会員たちと、アクティビティやクラブ・ライフについて熱く語り合い、その後もさまざまな場で交流を深めた。その中から実際に、茨城県・潮来ライオンズクラブとの合同事業も生まれた。地区の垣根を超えた活動は初めての試みで、クラブ内に大きな刺激をもたらした。

年度後半になっても、クラブのイケイケ状態は収まらなかった。ライオン進藤が障害者支援事業として更なる新企画を提案。既に年度内の事業計画は固まっていたが、会長は次年度に申し送ることをせず、テストケースとしての実施を決断。実行委員会で検討するようライオン進藤に話をした。

「この頃から、アクティビティの実行委員会などで、メンバー同士顔を合わせる機会が増えました。それに伴ってベテランや中堅の方たちとも一緒に活動出来、クラブへの帰属意識が強くなりました」（畠山幹事）

東京世田谷ライオンズクラブが変わるきっかけになった要因の一つは、アクティビティに対するアプローチの仕方にあったようだ。それまでは、どちらかと言うと継続事業が中心だったが、新規事業を積極的に採用し、企画段階から会員が力を合わせて取り組むことで、クラブ全体が活性化するという効果が生まれたのだ。

また、若手の提案をベテランの会員たちが受け入れてくれることが分かったことも大きな収穫だった。厳

格で、新会員にとっては近寄りがたく、話も出来なかったベテラン会員たちだが、若手の意見を聞く柔軟性も持っていたのだ。それは08 - 09年度の一連の動きの中で、若手会員たちにも伝わり始めていた。

「厳しく接しながらも、若手をきちんと認めてくださっていたんですね。今年度、スムーズに運営が出来ているのも、そうした理解ある先輩たちのおかげです」（石上会長）

もう一つのきっかけは、9月に開催した45周年記念式典で、クラブのベテラン会員が宣言した一言だった。「東京世田谷ライオンズクラブは、日本最初の東京ライオンズクラブの直系の一つだが、その中で唯一、地区ガバナーを輩出していない。近い将来、必ずガバナーを出す」。実はそれまで、地区に人材を出すことに関心がなく、やや閉鎖的だったクラブの空気が、この発言で変わり始めた。

地区を超えた潮来ライオンズクラブとの合同事業もそうだが、他クラブへの例会訪問も活発になった。「例会を欠席した時はメーク・アップをするよう」に言われたライオン進藤が、その通りに実行したことが始まりだ。会長の提案で、その報告をクラブニュースに執筆。ニュースはメールマガジンでクラブ内外に配信していたため、後に続く若手が出て来たり、逆に他クラブから例会訪問を受ける機会も多くなった。内向きだったクラブが、他クラブも驚くオープンなクラブへと大きく舵を切り始めた。

そして、この08 - 09年度以降、21世紀になってから入会した若手が、続々と三役に就任し、その流れが拡大していった。10年に入会した会計のライオン須藤陽子はこう話す。

「私が入会した頃は、まるで学校のクラブ活動のように楽しい会になっていました」

3月2日に開催したチャリティー・コンサートでは東京世田谷ライオンズクラブの活動紹介コーナーも設け、クラブのパンフレットも配布した

それに拍車をかけたのが、フェイスブックだ。2011年に映画「ソーシャル・ネットワーク」の公開後、日本でも急速にユーザー数を拡大したフェイスブックは、ライオンズのネットワークも飛躍的に広げた。東京世田谷ライオンズクラブでは7～8人の会員が登録し、例会やアクティビティなどの情報を発信。それに他クラブの会員がコメントや評価を付け、更に全国へと拡散していく。

しかも、その動きはネットの中にとどまらない。畠山幹事が大阪へ出掛けた折、335 - B地区の会員たちがフェイスブック交流会を開いてくれた。交流会にはライオン須藤も参加し、地区は違えど同じライオンズの仲間として、初対面とは思えない楽しい時間を過ごした。

「外に出て得られた情報を、クラブニュースやフェイスブックでシェアするので、互いに刺激し合い相乗効果を生んでいます。どんどん輪が広がっていて、ライオンズがますます楽しくなっています」（ライオン須藤）

全てがいい方向に展開し、若手会員が、胸を張って友人を招請出来るクラブになった東京世田谷ライオンズクラブ。しかも、その勢いは止まりそうにない。（取材／鈴木秀晃）

それは喧嘩腰で始まった。火種となったのは、クラブにとって大きな節目となる結成50周年だった。

記念の年を2年後に控えた2008年、伊丹ライオンズクラブ（在本博会長／27人）は会員減少と高齢化にあえいでいた。1960年に結成され、一時は100人規模の会員数を誇っていたが、正会員は20人を切り、平均年齢は70歳に届こうとしていた。

このままでは50周年など到底無理だ。とはいえ、先人たちが受け継いできた伝統を思うと、手をこまねいてはいられない。そこで40周年時の会長ライオン朝山吉治が再登板、50周年の会長を務めることになった。当時76歳のライオン朝山は体調を崩し、本来ならライオンズどころではなかった。それでも、伝統のタスキをつなぐことを何よりも優先したのだ。

が、これには家族が猛反発した。

「あんたら、おやじを殺す気か！」

まだライオンズ入会前だった、長男の朝山浩明現幹事は、大会委員長として打ち合わせに訪れたライオン貫名恒に、そうくってかかった。

「そういう貫名さんも具合が悪かったんです。命懸けてまでやることじゃないだろ、いったい何なんや、と最初は思いましたよ」

●会員増強成功例❷兵庫県・伊丹ライオンズクラブの場合

ライオンズのタスキをつなぐため

50年の伝統を継承しながら、新しい風を送り込む
自然消滅の危機感から生み出された若返り会員増強の手法

と、朝山幹事は振り返る。

正面からそれを受け止めたライオン貫名はその時、ある構想を持っていた。クラブ消滅の危機を乗り越えるため、この50周年を機にクラブを再生させよう。そのためには、若い人たちが入ってこなくてはいけない。

そこで、まずはクラブの若手会員と、会員の子息を中心とした「次世代会」を作り、運営費を助成することにした。当初はライオンズとは直接関係のない会として発足。が、その先には当然、ライオンズに入会してもらおうという魂胆があった。

「ライオンズは家族や会社とは離れた息抜きの場でもあり、本音を言えば息子に見られるのは気恥ずかしい。でも、背に腹は代えられません」

と、ライオン貫名は話す。一方、息子世代の朝山幹事はこう打ち明ける。

「子どもの側から言うと、踏み込みたくない世界でした。衰退しているのは分かっていましたし、あえて火中の栗を拾うことはない、と」

が、父やライオン貫名を始めとした会員たちのクラブに対する思いや愛情を知った朝山幹事は、「助けないかんな」との気持ちが強くなり、次世代交流会へ友人たちを誘って参加した。

第1回の交流会には15人が参加。最初にライオンズクラブの歴史や伊丹ライオンズクラブの事業報告などガチガチのライオンズの話があった。朝山幹事の同級生で、有無を言わせず参加させられた木原宏文現会計は、

「正直、とんでもないところに連れて来られたと思いましたね」

と、その時を思い出して笑う。

その後、交流会は2回開催され、更に伊丹ライオンズクラブゴルフ同好会のコンペに参加したり、異業種交流会や若手経営者の勉強会も企画。同級生や友人、同業者、取引先などに輪を広げ、延べ30人近くが参加した。

その結果、50周年を目前にした2010年4月、一気に9人の若手が入会。次世代会の効果が現れた。

昨年10月8日のライオンズ･デーは新旧会員が力を合わせ、市役所前広場と昆陽池公園内の「ライオンの森」周辺の清掃奉仕を実施した

「正直言うと、50周年のためだけの兵隊のつもりで入ったんです」

と、子ども世代の朝山幹事。例えば50周年記念誌も、1年前に入ったばかりの子ども世代が編集実務を担当。しかし、その中心となったライオン山城裕司が「おかげでクラブの歴史を知ることが出来ました」と語るように、50周年の「兵隊」として動くうち、自然とクラブに溶け込めるようになり、仲間意識も生まれた。更に自分を磨き、楽しむことも覚えた。

「もう一つ大きかったのが、我々子ども世代に対する配慮です」

と、次世代会の提案者ライオン貫名恒の長男、ライオン貫名恒一は話す。

一つは会費。最初は賛助会員として入会してもらい、頃合いを見ながら無理なく正会員に移行してもらえるよう、賛助会員の会費を正会員の4分の1程度に設定した。

二つ目は例会時間だ。以前は昼例会をしていたが、現役世代として仕事が忙しい若手に配慮し、例会時間を夜の7時からに変更した。また、月2回開いていた理事会も1回にして、時間的な制約を緩和した。

次世代会はその後、クラブの会員増強委員会となり、会員候補者を招いての交流会として継続、順調に入会者を迎えている。現在、伊丹ライオンズクラブは正会員20人（うち終身会員2人）、賛助会員7人だが、次年度は2人が賛助会員から正会員になる。そして何より、若手が12人増えたことで、70歳に届こうとしていた平均年齢も一気に10歳余り下がった。

その一方、30代、40代の子ども世代と、60代、70代以上の親世代で、年齢格差が広がったのも事実。

「当然、ひずみはあります。そんな中で、若い人には徐々にライオンズの趣旨を覚えてもらい、それまでは片足ぐらい脱線してもOK、両足が離れてしまったら迎えに行くぐらいの気持ちで臨んだらいいんですよ」

と、今年度ゾーン・チェアパーソンを務めるライオン前田望は言う。少々の脱線はOKと言われた若手側だが、

「次世代交流会で入会した若手で会員増強委員会を構成し、5年先、10年先の会員構成も考えながら、委員会活動をしている」（ライオン朝山）

「若い世代の経験が乏しい中、世代交代をいかに進め、伊丹市内4クラブの調和を取りながらどう会員増強を図っていくかが課題」（ライオン木原）

「JCをターゲットに交流会に参加してもらっている。2、3年後には入会してほしい」（ライオン貫名恒一）

と、既に先を見据えた計画を練っている。

そう。若い会員が増え、平均年齢が下がったからと言って、それがゴールではない。50周年を乗り切ったからと言って、それで終わりではない。これからもクラブの新陳代謝を図りながら、ライオンズのタスキをつないでいくことが大切だ。

今年度の在本会長のテーマは「対話と連帯」。新旧会員が一丸となってクラブを盛り上げるべく、伊丹ライオンズクラブは新たな50年に向けて歩み始めた。（取材／鈴木秀晃）

●女性会員の肖像① 大西智子の場合

日常を忘れリフレッシュ出来るライオンズは女性向き

結婚して大西家の一員となってから、舅が隔週ごと定期的に外出するのを知った。それがライオンズクラブの例会だと分かったのは、しばらくしてからだったが、その時の舅はいつも生き生きとして楽しそうだった。

約20年前、舅と同じ船橋中央ライオンズクラブの林静誠地区ガバナーが、船橋で女性クラブの結成を計画。商工会議所女性会会長を務めていた大西にも声が掛かった。舅の影響でライオンズに好印象を持っていた大西に、入会への迷いはなかった。

入ってみると、こんなに楽しい会があったのか、と思うぐらい自分に合っていた。女性クラブだということで、他クラブから声が掛かり、資金調達事業などに参加する機会が多かった。そのおかげで実地にいろいろなことを学びながら、クラブは一歩ずつ成長していった。自身もチャーター・ナイト委員長や二代目の会長を務めたり、地区役員の指名も受け、活躍の場を広げていった。

「キャビネットに出させてもらうと、国際協会や地区、他クラブの情報などを知ることが出来ます。そうなると、クラブに帰った時、世界はもっと広いと言いたくなる場面が正直出てきます。でも、私が地区に出させてもらっている間、クラブの皆さんは着実に実績を積み上げ、クラブの足固めをしてくださっていたわけです。ここで私が先走ったら、それはただの勇み足だなと考えました。やはり基本はクラブだと思います」

そうして軸足はクラブに置きながら、その後も地区役員を歴任。そして2010年、金井一夫第1副地区ガバナーから、次期キャビネット幹事の打診を受けた。所属クラブはもちろん、ゾーンも違うし、なぜ私に?という疑問が先に浮かんだ。すると金井は「これからのライオンズは女性の活躍が重要。そのためにも、自分のキャビネット幹事には女性をと考えていた」と話してくれた。

大西は「本当に私でいいのか、ゆっくり考えてください」と答えたが、金井の説得に「後に続く人たちのために引き受けるべき」と決心。そして翌11年7月、正式に333-C地区キャビネット幹事に就任した。

「当地区は以前から、女性会員を正当に認めてくれる風土があるんです。そのため初の女性幹事も優しく受け入れてくださり、非常にスムーズに役割をこなすことが出来ました」と、大西は振り返る。そんな自身の経験を踏まえ、会員増強についてはこう話す。

「まず会員たちが、自分たちのクラブの良さを、しっかり把握することが必要です。その上で達成感や生きがい、自分の成長など、入会のメリットをちゃんと伝えていくべきです。奉仕を目的とし、利害関係のないライオンズクラブは、人間として一番いい部分を出せる場だと思うんです。若い人たちにはそれを伝えたい」

更に子育てや介護など、現実の問題に直面する女性にとって、ライオンズは日常を離れてリフレッシュ出来る場でもあると言う。悩んだり疲れていても、例会でストレスを発散し、また日常に向かっていける。そのためには、無理をせず自然体でクラブに関わることが大切だと、大西は話す。（取材／鈴木秀晃）

■大西智子
おおにし・ともこ

1942（昭和17）年10月生まれ。㈲大西園役員。1994年9月千葉県・船橋さざんかライオンズクラブチャーター・メンバー。96年度クラブ会長、00年度ゾーン・チェアパーソン、09年度リジョン・チェアパーソン、11年度333-C地区キャビネット幹事。

2003-04
2010-11
2011-12
2005-06
2010-11
2012-2013
LIONS CLUB
Membership Excellence
Year-Round Growth
LIONS
L
INTERNATIONAL
PRESIDENT'S Retention Campaign
2010-2011
FUNABASHI SAZANKA
JAPAN

●女性会員の肖像②ライオン秋田千鶴の場合

明るいキャラクターで新風を吹き込んだ「オッサン」地区幹事

その小柄な身体から発する明るく前向きなエネルギーに、多くのクラブやメンバーが励まされ、元気付けられたことだろう。

「初めての女性幹事と言いながら、大羽ガバナーが私を紹介してくれる時は必ず、『うちの幹事はオッサンですから』でした」と笑う。

ライオン秋田が入会してから20年が経った頃、益田あけぼのライオンズクラブに地区ガバナー擁立のチャンスが巡ってきた。ところがクラブでは、キャビネットを受け持つのは無理だと、辞退する意見が大勢を占めた。10年前には60人を超えていた会員は30人に減っていて、キャビネットを支える負担には耐えられないと、誰もが弱気になっていた。そんな男性メンバーたちに、「地区ガバナーも出せないクラブなんて、魅力も何もない！」と発破を掛けたのがライオン秋田だった。それが引き金となって、昨年度地区幹事を引き受ける羽目になる。

益田あけぼのライオンズクラブは1987年に女性の入会が認められた後、数年のうちに女性会員を迎えたクラブで、ライオン秋田は違和感なく自然体で活動してきた。しかし地区内にはいまだに女性の入会を拒んでいるクラブもあり、「女性に地区幹事が務まるのか」という声も聞こえた。実際、それまで地区の役員をしたこともなかったし、キャビネットの仕事など右も左も分からない。それでも、女性には勇気も度胸もあるし、男性とは違う気配りが出来ると、ひるむことはなかった。ライオン秋田は幹事の仕事はサービス業と考えて、それに徹することにした。特に力を注いだのが、少人数クラブへの支援だ。国際本部への報告が滞っているクラブには、進んで足を運び指導に当たった。

「どうせもうすぐ解散だから」と捨て鉢になっているメンバーに助言をし、それが功を奏して5人の増強に成功したクラブもある。また、時には悔しい思いもした。解散の危機との噂を聞いて例会日に訪ねると、前日の理事会で解散を決めたと言う。「あと1日早く来てくれたら、みんなを説得出来たのに」と、悔やしがる会長と共に涙を流した。

そんなライオン秋田が地区幹事になって初めて挑戦したのが、パソコンだ。始めは「『キャ』はどう打つん？」と尋ねては事務員を煩わせていたが、ガバナーの許可を得て、練習がてら「キャビネット幹事のひとりごと」のブログを開始。幹事の日々を生き生きとした文章でつづり、アクセスは11カ月で14カ国1万2千を数えた。

「年金は全部ライオンズにつぎ込む覚悟です」と言うライオン秋田には、ぜひとも実現させたい大きな目標がある。それは、336複合地区から国際会長が出るのをその目で見ること。

「例えば就職する時、あなたはずっと平社員ですよと言われるより、がんばれば社長にもなれると言われた方がやる気が出ますよね。だから私は、若いメンバーに会うと、役職を頼まれたら受けなさい、早くクラブ会長をやって地区の役職に就きなさいと話しています。若い人にも女性にも良い人材はいます。国際会長を目指すなら、そういう人たちに50代でガバナーになってもらわないと」

その日が待ち遠しいライオン秋田だ。

（取材／河村智子）

■秋田千鶴
あきた・ちづる

1945（昭和20）年1月生まれ。島根県出雲市出身。夫の転勤で移り住んだ益田市で91年にペンション「族」を開業。92年益田あけぼのライオンズクラブ入会。02年度クラブ会長。11年度336-D地区幹事。12年度地区LCIFコーディネーター。

CHIZURU AKITA
食品衛生責任者
健康づくり応援店マップ

被災地のライオンズは今

岩手県・陸中山田ライオンズクラブ

復興への強い思いを胸に 結成30周年記念式典を開催

4月14日、岩手県山田町の中央公民館で、陸中山田ライオンズクラブ（鈴木康正会長／25人）のチャーター・ナイト30周年記念式典が開催された。当日は地区内の会員を中心に約200人が出席。震災に対する支援活動を通じてつながりが出来た、青森県・弘前東奥、栃木県・田沼両クラブからも参加があった。

陸中山田ライオンズクラブは震災で2人の会員を失った。また、住宅と事業所・店舗の双方が全壊となった8人を始め、当時の会員22人中16人が被災。兄弟や親戚を亡くした人もおり、被害を免れた会員は一人もいなかった。

その後、地区キャビネットや県内陸部のクラブ、姉妹提携を結ぶ青森県・平賀ライオンズクラブなどが、見舞いや支援、激励のために次々と山田を訪れてくれた。更に、北は北海道から南は四国まで、全国のクラブが炊き出しや物資などで多くの支援を寄せてくれ、こうしたライオンズの友情と行動力に力を得た会員たちは、復興へ向けて徐々に動き始めた。

「今回ほど、ライオンズクラブという組織を心強く思ったことはありません。心が折れそうになっている中、日本全国の、そして世界中のライオンズから寄せられた温かい支援が、どれだけ力になったことか。また国際会費等の免除支援も、被災したクラブにとっては、大きな支えになっています」

と、事務局を担当する平塚六郎元会長は話す。一方、そんな状況下で迎えた30周年のため、クラブの中には、支援を受けていながら式典などやるべきではない、という意見も若干ながらあったという。

「これには、同じゾーンの遠野ライオンズクラブが、35周年を取り止めたという経緯もあるんです。遠野は内陸部なので津波被害はなかったんですが、沿岸部の我々に気を使ってくださったんですね」

と、今回の30周年で実行委員長を務めた千坂清一元会長が説明してくれた。

山田町出身の鈴木俊一外務副大臣や、町の復興を牽引する佐藤信逸町長も式典に出席し、陸中山田ライオンズクラブの30周年を祝った

「しかし、この機会に元気なところを見て頂くのも意義があるだろう、と開催を決めました。復興というのは、元の状態に戻ることです。であれば、震災前と同じような式典をやって、これまで支えてくださった皆さんの気持ちに応えようと、会長以下全員で企画し、実行しました」

当日は、その意図をくみ取ったブラザー・クラブから大勢の会員が出席してくれた。特に県外から駆け付けた弘前東奥、田沼の両クラブは、昨年オープンした山田町初のビジネスホテルに前泊。夜はクラブの仮設事務所で3クラブ合同の懇親会を行い、陸中山田ライオンズクラブから町やクラブの現況と今後の見通しを聞くと共に、それぞれが計画している支援活動などについて話し合った。

会場設営から祝宴の料理まで、地元高校生の協力も得ながら全て手作りで開催。200人の料理は仮設店舗で営業するライオン佐々木政昭が調理した

東日本大震災

町役場屋上から望む山田町中心地の様子（2013年4月14日）

町とクラブの現況と今後の見通し

山田町は岩手県沿岸部のほぼ中央、北を宮古市、南を大槌町に挟まれている。震災による死者・行方不明者は801人。被災家屋は全居宅数の約47％に当たる3369棟、被害の大きかった田の浜地区や大沢地区では実に70％の家が被災した。また、30周年記念式典を開催した中央公民館や町役場周辺では火災も発生。山田町の焼失面積は推定で約18ヘクタールと、今回の震災で発生した東北沿岸部の火災では最大の被害となった。震災前には約1万9千人だった人口は、町の推計では約1万7千人、実際には1万4千人程になっているのではないかと言われている。

「営業を再開したスーパーが、人口を1万6千人と見積もって仕入れなどを行っていたのですが、実際には1万4千人分の売り上げしかないそうです。また、銀行のATMの利用状況でも同じような数値になっているので、1万4千人というのは、かなり実態に近い数字だと思います」

と、山田町議会議長を務める昆暉雄元会長は話す。

昆（ライオン）によると、町では現在、復興計画をまとめ、対象地域の住民に説明を行っているところだという。計画では、震災前に7メートルだった防潮堤を10メートルに拡張。海側の地域は居住制限区域にし、万一津波がきた場合の水たまりにする。居住域は5メートルかさ上げし、町全体を北側へ移すことになる。かさ上げや道路整備に4～5年。住宅の着工はそれからになるので、町作りが完了するのは、震災から見ると10年はかかることになりそうだ。

そんな中、明るい話題もある。町の主産業カキの養殖が、8割方回復したという。殻付きカキの生産量日本一を誇っていた山田湾には、約4800基の養殖いかだがあった。が、津波で9割以上が流され、残ったのは450基程。そこで今は、浮き球を使って養殖をしている。

また、陸中山田ライオンズクラブにも明るい兆しがあり、支援活動などを通じて5人の新会員が加わり、会員数は震災前を上回った。まだ8人が仮設住宅に入っているが、仮設店舗などで仕事を再開した会員も8人おり、少しずつ前進している。

「怖いのは、被災地への関心が薄れていることです。今年に入ってから、町への支援活動は無いに等しい状態だそうです。以前、全国の数クラブがネットワークを構築し、仮設住宅に米を届けながら安否確認をしてくださいました。『忘れていないよ』というメッセージを送り、被災者に勇気と希望を与える、そうした心の活動が、今こそ必要なんだと思います」

千坂（ライオン）はそう語り、全国のライオンズの変わらぬ支援に期待を寄せていた。

（取材／鈴木秀晃）

■国際理事
高田順一
（富山昭和）

スペイン国際理事会の報告

4月12日に日本を発ち、スペインでの国際理事会に参加、25日に帰国しました。

イベリア半島南西部に位置するアンダルシア地方には、セビリア、コルドバ、グラナダなど豊かな歴史と文化遺跡を残す都市があります。今回理事会が開かれたのは、アンダルシアでも地中海に面したコスタ・デル・ソル（太陽海岸）と呼ばれる海岸リゾート地マルベーリャです。冬の間、日差しが無く寒さ厳しいヨーロッパにあって、一年を通して太陽の恵みを受けるこの地域は高い人気があります。ヨーロッパ中から人が移り住んでいるマルベーリャには五つのクラブがあり、そのうちフランス語とドイツ語を使用するクラブが一つずつあるそうです。

今回の理事会では協会から白と紺色のポロシャツが支給され、委員会、理事会はノーネクタイで行いました。今までの理事会には無かったことです。リゾート特有のゆったりとした雰囲気の中で自由な発想を出し合おうという狙いがあったと思われ、結果は極めて好評でした。

理事会が始まる前の14日に、所属する女性及び家族会員タスクフォースの会議が開かれ、各会則地域フォーラムで行った女性会員ミーティグの結果を元に、これからの活動方針を話し合いました。国際協会が会員増強を続けるために、女性会員と若手会員を対象に力を入れていくこと、全会員の50％を女性にすることを目標としました。

16～20日の理事会では、332複合地区の被災クラブから申請があった次年度上半期国際会費の免除について日本の国際理事3人が財務委員会と話し合い、理事会の承認を得ることが出来ました。しかし今後は、日本ライオンズの仲間が援助することを検討する時期にきているのではないかと感じました。

私が委員長をしている会員増強委員会から理事会に提出した議案のうち、特に日本に関係するものとして、クラブ支部に関する理事会方針変更があります。今まで親クラブの監督下に置かれていたクラブ支部の自主権を大幅に認めることになりました。日本でもクラブ支部結成に向けて活発な動きが見られますので、ぜひこの変更内容を検討して頂きたいと思います。

２０１８年の国際大会開催地はアメリカ・ネバダ州ラスベガスに決定しました。一つの大きなホテルの中で全ての会議や行事が完結するため経費が削減出来ることなど、協会にとってメリットが多い点が評価されました。

理事会の間に次年度国際役員選挙に関する非公開の会議がありました。次期国際第2副会長に関しては、インドの候補者が出席していましたが彼の発言機会は無く、山田實紘候補者だけが推薦演説の対象になりました。理事会メンバーの間では山田實紘第2副会長誕生が既成事実となっています。これも皆様方のご支援の賜物と感謝申し上げます。

ライオンズニュースカセット

NEWS CASSETTE

ドイツ・ハンブルクで日本ライオンズの悲願を現実に

日本から2人目の国際会長誕生という日本ライオンズの大きな期待を背負う山田實紘2013‐14年度国際第2副会長候補者が、ハンブルク国際大会で選挙に臨む。国際第2副会長選挙に関係する大会行事は以下の通り。

■第2総会

7月8日（月）10時～12時30分
O²ワールド・ハンブルク・アリーナ

総会の後半に国際理事候補者と国際第2副会長候補者が演説。第2副会長候補者の演説に続き、支援者によるデモンストレーションがある。

■候補者選挙運動集会

7月8日（月）15時30分～16時30分
コングレスセンター・ハンブルク

国際第2副会長と国際理事の立候補者が顔をそろえ、支持を訴える。

■投票

7月9日（火）7時30分～10時30分
ハンブルク・メッセ&コングレス

投票を行う代議員は前日8日の17時までに資格証明の手続きを完了しなければならない。詳細は本誌2月号参照。

国際第2副会長候補者

4月末時点で、国際第2副会長には6人が立候補している。選挙はハンブルクでの第96回国際大会で、7月9日に行われる。当選者は2015‐16年度国際会長を務めることになる。

ライオンズクラブ国際協会
第96回国際大会
公示

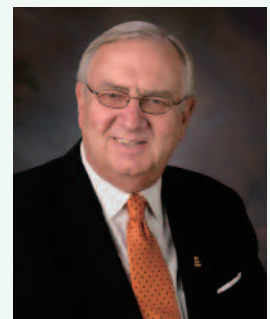
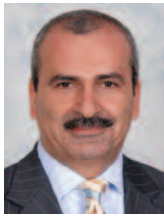
国際付則第6条第2項にのっとり、ここに2013年国際大会の公式通達を致します。第96回国際大会は、ドイツ・ハンブルクで開催されます。大会は7月5日午前10時に開会し、7月9日に閉会します。本大会の目的は、国際会長、第1副会長、第2副会長並びに17人の国際理事の選出、及び本大会前に正規の手続きを経て提出されたその他事項の処理にあります。

ハンブルクは、国際的なセンスに満ち、食べ物はおいしく、見事な歴史的建造物を誇る美しい都市です。ドイツ第2の大都市として商業、文化、芸術、スポーツ、観光において国際舞台で重要な役割を果たしています。ライオンズの皆さんにお楽しみ頂ける活気に満ちたすばらしい所です。

大会期間は仲間と親睦を交わし、楽しみと学びの機会に満ちた体験が出来ます。感動的なフラッグ･セレモニー、お祭り気分のインターナショナル･パレード、多様な文化を織り交ぜたインターナショナル･ショーなど、数十年にわたり受け継がれてきた数多くの伝統的な催しを楽しんで頂けることでしょう。大会総会は、ローラ・ブッシュ元アメリカ大統領夫人による基調講演、有名なイタリア人テノール歌手アンドレア・ボチェッリへの2013年人道主義大賞授与、2013-14年度国際会長及び地区ガバナーの就任式など盛りだくさんの内容です。

ドイツのライオンズはこの大会を円滑に進められるよう全力を尽くしてきました。彼らの見事な、効率の良い丁寧なもてなしを受けて、ライオンズは大会を心ゆくまで楽しむことが出来るでしょう。奉仕の世界において国際大会は、ライオンズにとって奉仕の使命達成に向け、より良い奉仕への意気込みを高めてくれる最高のイベントです。2万人以上のライオンズと共に、記念すべき大会にぜひともご参加ください。

2013年5月9日
アメリカ・イリノイ州
オークブルックにて

ライオンズクラブ国際協会
国際会長　ウェイン・A・マデン

ナレシュ・アガワル（インド・デリー）　98年の第81回国際大会で国際理事に選出。企業数社を経営する事業家で、74年からタバラ・スマイル ライオンズクラブの会員。GLT会則地域リーダーで累進MJF。業界またライオンズにおける受賞多数。

サリム・ムサン（レバノン・ベイルート）　88年からベイルート・セントガブリエル ライオンズクラブの会員で、97～99年国際理事を務める。国際理事会アポインティー、地区ガバナー・エレクト・セミナーのグループ・リーダーを2回務め、現在はGMTエリア・リーダー。数回のフォーラムや地域会議の委員長を務め、国際大会に25回、50以上の地域フォーラムに出席。

フィル・ネーサン（イギリス・アールスコルン）　82年から会員で、サウス・ウッドハム・フェラーズ ライオンズクラブのチャーター・メンバー。99～01年国際理事を務める。株式仲買人、会社重役。06年ヨーロッパ・フォーラム委員長。奉仕活動の業績に対し、01年エリザベス女王の承認によりMBE叙勲。

スティーブン・シェラー（アメリカ・オハイオ州ニューフィラデルフィア）　80年からドーバー ライオンズクラブの会員。公認会計士で、ニューフィラデルフィア市の学校の最高財務責任者。06～08年国際理事で、08年から12年までGMTエリア・コーディネーターを務めた。累進MJFであり、業界の表彰と同様にライオンズでの受賞多数。

ユージーン・M・スピーズ（アメリカ・サウスカロライナ州ムーア）　元大学理事、元教授。81年からスパータンバーグ ライオンズクラブの会員で、10年の第93回国際大会で国際理事に選出。ライオンズや業界の表彰を多数受賞。累進MJF。

山田實紘（日本・岐阜県美濃加茂）　85年から美濃加茂ライオンズクラブの会員。病院理事長で、神経外科医。05年に国際理事に選出。11・12年度国際理事会アポインティーを務めた。累進MJFで、地域や業界の数々の組織で活発に活動している。

2018年国際大会の開催地はアメリカ・ラスベガスに決定

4月にスペイン・マルベーリャで開催された国際理事会において、2018年の第101回国際大会の開催地が、アメリカ・ネバダ州ラスベガスに決定した。ラスベガスでの開催は1971年の第54回国際大会に続いて2度目となる。「国際理事だより」（22ページ）で高田順一国際理事が報告している通り、コンベンション・センターを備えた巨大ホテルの中で全ての大会プログラムが行われるのが大きな特徴だ。

2014年以降の開催予定

14年7月4日～8日：カナダ・オンタリオ州トロント
15年6月26日～30日：アメリカ・ハワイ州ホノルル
16年6月24日～28日：日本・福岡
17年6月30日～7月4日：アメリカ・イリノイ州シカゴ

複合地区、地区の有能な講師を育てるための講師育成研修会

4月26日～29日、台湾・台北で東洋・東南アジア（OSEAL）地域を対象にした講師育成研究会（FDI）が開催された。FDIの目的はライオンズの研修で講師を務めた経験がある会員を対象に、そのスキルを更に高めて複合地区、地区レベルの研修の充実を図ること。毎年会則地域別に開かれ、今年度はヨーロッパ、インド・南アジア・アフリカ及び中東と、OSEALの3カ所で開かれている。日本からは9人が参加し、牧田健一元330-B地区ガバナーと団英男元335-A地区ガバナーの2人が講師を務めた。団講師は「初日は皆さん緊張され、これから何が始まるのかという不安が顔に出ていましたが、講義が進むにつれて打ち解けて積極的に参加されるようになりました。対話型の講習ではロールプレイを取り入れたパネル・ディスカッションを行いましたが、最初から最後まで笑いにあふれ、国際本部担当課のライアン課長からは、今までの日本語クラスとは違った終始笑顔のチームだったと評価がありました。これからも各レベルで講師としてがんばって頂きたいと思います」と振り返る。

日本の受講者は以下の通り。河合悦子（330複合地区／複合地区議長／東京みやこ）、川手寅平（330／第1副地区ガバナー／山梨アカデ

公式通達

2013年国際大会（ドイツ・ハンブルク）

以下の国際会則及び付則改正案が2013年国際大会において提出され、代議員の票決を受けます。

第1項：運営役員の役職名及び責務と国際理事の役職名及び責務を区別するため、「事務総長」という役職名を復活させるとともに、「上席事務総長」という役職名を運営役員に加える改正案。（会則及び付則に対するこの改正案の可決には3分の2の賛成票が必要）

下記の改正案を承認すべきか？

国際会則第5条1項を、「国際本部長、会計、幹事（国際本部長、会計、幹事は運営役員である）」とある文言を削除し「運営役員」との文言に差し替えることにより、改正する。

さらに、国際会則第5条8項を、「国際本部長、会計、幹事」とある文言を削除し「運営役員」との文言と差し替えることにより、改正する。

さらに、国際付則第3条3項を、「国際本部長」とある文言を削除し「上席事務総長及び/又は事務総長」との文言に差し替えることにより、改正する。

第2項: 終身会員の一括納入金をUS$650に増額するという改正案。（本付則に対するこの改正案の可決には過半数の賛成票が必要）

下記の改正案を承認すべきか？

国際付則第11条7項を、「US$500」とある文言を削除し「US$650」との文言に差し替えることにより、改正する。

ミー）、安井克之（331／元地区ガバナー／北海道・旭川東）、林昭兵（332／第1副地区ガバナー／宮城県・仙台エコー）、植村茂敏（333／複合地区GLT委員長／栃木県・小山東）、吉原稔貴（333／地区青年アカデミー委員長／千葉県・市川）、髙阪登司（334／地区GMTコーディネーター／愛知県・名古屋イースト）、松前龍宗（336／第1副地区ガバナー／香川県・高松玉藻）、山本正廣（337／複合地区LCIFコーディネーター／福岡県・大川）。

335・B地区がライオンズの奉仕を題材にした絵本を制作

マデン国際会長が掲げる「リーディング・アクション・プログラム」に沿って、335・B地区（大阪府・和歌山県／菅春水地区ガバナー）は「ライオンズクラブの奉仕を絵本にしよう」という企画を打ち出した。ライオンズの活動を題材にした絵本を作り、保育園や幼稚園、小学校で子どもたちの読み聞かせに活用してもらって、ライオンズのPRも図ろうというアイデアだ。担当する地区PR・IT委員会並びに献血・アクティビティ委員会

ハンブルクへ行こう！　第96回ライオンズクラブ国際大会情報

国際大会開幕まで残すところあとわずか。これまで本欄に掲載した大会行事に関する追加情報を紹介する。

■会場を彩るオーケストラの演奏

7月6日（土）15:30～16:15　CCH

ノルデン・オーケストラは北欧とバルト海沿岸の八つの国々の音楽学校で学ぶ生徒たちによる交響楽団で、1993年に創設された。楽団の強力な支援者である北欧のライオンズの協力により、ハンブルクでの演奏が実現する。インターナショナル・パレード終了後のひと時、若い演奏家たちが奏でる音色を楽しもう。

7月7日（日）16:00～16:30　CCH

ドイツ各地の才能あふれるライオンズ・メンバーで結成されたドイツ・ライオンズ交響楽団が、すばらしい演奏を披露する。

2013年7月5日～9日　ドイツ・ハンブルク

■元ファースト・レディーの基調講演は開会式で

7月7日（日）10:00～13:00　O^2

元アメリカ大統領夫人のローラ・ブッシュ氏による基調講演は、第1回総会（開会式）の中で行われる。

■日本語セミナー「奉仕の世界を広げる」

7月7日（日）14:00～15:30　CCH

優れた奉仕活動を提供するために不可欠な会員増強の鍵とは？　チームワーク、新クラブ結成、新会員の勧誘、女性会員の四つのトピックで考える。山浦晟暉GMT副会則地域リーダー、後藤隆一GLT副会則地域リーダーがファシリテーターを、長澤千鶴子333-C地区ガバナー、中村泰久330-C地区ガバナー、玉川孝元337-E地区ガバナーがプレゼンターを務める予定。

■MJFピンの贈呈式

7月8日（月）15:45～16:45　CCH

大会期間中に千ドル献金を行ってメルビン・ジョーンズ・フェロー（MJF）または累進MJFの資格を得た会員に、ウィンクン・タムLCIF理事長から直接MJFピンが授与される。

【会場】CCH=コングレスセンター・ハンブルク
　　　O^2=O^2ワールド・ハンブルク・アリーナ

＊本欄掲載のプログラムには変更が生じる場合があります。日時や会場は現地で配布される大会プログラムで確認してください。

が地区内クラブに呼び掛けて絵本の草案（ストーリーとイラスト）を公募し、献血をテーマにした喜多喜美（大阪プラム ライオンズ）の作品が選ばれた。地区ではこの作品に更に編集を加えて、『森のけつえきセンター』を発行。希望するクラブに頒布してアクティビティに活用してもらう。

この絵本に関する問い合わせは335‐B地区キャビネット事務局（TEL：06‐6222‐7331　Eメール：335bcabinet@lc335b.gr.jp）へ連絡を。

ライオンズ会員2人が第5回今泉賞を受賞

公益財団法人日本アイバンク協会が主催する第5回今泉賞の受賞者（3個人・団体）が発表された。ライオンズクラブからは、出口喜男（長崎県・諫早ライオンズ／元地区ガバナー）、故丸田廣（宮崎はまゆうライオンズ）の2人が受賞する。この賞は角膜移植医療の実践及びアイバンク活動の推進に著しい貢献をした個人や団体に贈られるもの。贈呈式は7月26日開催予定のアイバンク全国連絡協議会で行われる。日本アイバンク協会の発表による主な選定理由は、左記の通り。

▼出口喜男＝自身が開業している産婦人科と福祉施設の職員、入所者に献眼登録と献眼を呼び掛け、それを核にライオンズクラブの活動などを通じて多方面に献眼の輪を広げた。自ら献眼の連絡網の中心としてアイバンクへの連絡を務める。

▼丸田廣（2012年12月30日逝去）＝アイバンク運動は単一クラブによる取り組みでは不十分であると県内クラブに呼び掛け、宮崎県アイバンクライオンズ協力会の設立に中心的役割を果たした。献眼顕彰慰霊碑の建設に尽力し、県民への啓発に貢献。

会議録

■**第8回複合地区ガバナー協議会議長連絡会議**（3月29日／日本ライオンズ連絡事務所／出席者：河合悦子、中嶋辛、田畑英伍、高田浩、杉浦均、奥村啓二、寺越愼一、澁田繁晴各議長、高田順一、秦従道、武久一郎各国際理事）【議長協議】①マデン国際会長公式訪問（西）キャンセル料に関する回答②2016年第99回福岡国際大会協力のお願い（337複合地区）③第52回OSEALフォーラム（シンガポール）第1回ステアリング委員会報告④日本ライオンズ連絡事務所運営関係⑤その他⑥委員会・会議報告【国際役員との懇談】⑦講師育成研究会（FDI／4月26～29日台湾・台北）⑧家族会員について⑨RAPキャンペーン日本本部の方針について⑩その他

■**第8回東日本大震災復興支援対策本部会議**（3月29日／日本ライオンズ連絡事務所／出席者：山浦晟暉元国際理事、高田順一、秦従道、武久一郎各国際理事、河合悦子、中嶋辛、田畑英伍、高田浩、杉浦均、奥村啓二、寺越愼一、澁田繁晴各議長、千葉龍二郎、佐藤義則各地区ガバナー、吉田宗一郎監査役）①前回会議要録の確認②332複合地区の新規申請③前回保留の申請分④332‐B、C、D地区ガバナー文書⑤各種報告⑥承認リストと事業完了報告

■**第9回ライオン誌日本語版委員会**（4月4日／ライオン誌日本語版事務所／出席者：秦従道、高田順一、武久一郎各国際理事、久津間康允、茂尾実、中居雅博、小西宗仁、矢口武克、団英男、組嶽晶一、田崎登保各委員、辰巳博昭、小柴登司両ITアドバイザー〈オンライン〉）①ライオン誌日本語版事務所の運営②若手会員フォーラム③2013年4月号（10万700部発行）出来④5月号記事内容の確認⑤6月号以降台割（案）と主要記事予定⑥ライオンズ新書01『ライオンズスピリット』⑦その他

クラブ名称変更／解散／合併

■**クラブ名称変更**

広島県・加計→山県加計

■**解散クラブ**

4月＝埼玉県・吉川／福岡県・博多リバティ

■**合併クラブ（合併前のクラブ）**

福岡天神リバティ（福岡天神／博多リバティ）

訃報

■**献眼**

3月＝倉持孝（茨城境）／梅原悟（静岡県・中伊豆）／南孝行（長崎県・諫早中央）

◎ライオンとしての多大な功績をたたえ、ご冥福をお祈り申し上げます。

LCIF FILE

LCIF Development Update

LCIF Development Update

LCIF献金0クラブを無くすために

写真は334-A地区LCIFセミナーの模様

ライオンズクラブは国際的な奉仕団体で、会員は全て国際協会の一員です。地域に対する日常のアクティビティと共に、国際社会に対する奉仕も重要です。

　その場合、直接外国に行って活動をするのが理想ですが、単一クラブでは非常に大変なことです。そしてここに、LCIFの存在意義があります。我々はLCIFに献金することで、世界のライオンズを支援し、国際的な奉仕活動を効率的かつ効果的に行うことが出来ます。

　例えば東日本大震災に対しては、LCIFから2100万ドルの支援がありました。日本の献金額が年に700万〜800万ドルですから、これはその約3年分（世界の献金額約4千万ドルの2分の1）に当たります。長年にわたる日本の貢献が、世界の会員を動かし、このような大規模な支援活動が実現したのです。

　現在、LCIF献金0クラブを無くすことを目標にしていますが、LCIFへの献金と交付金事業を推進するには、良き人材と組織が必要だと思います。

　そのため、334複合地区では全ての準地区が、毎年9月にLCIFセミナーを開催しています。

（334複合地区コーディネーター／榎本舜治）

◆各地区の状況

●334‐A地区：LCIF献金世界一の当地区として、MJFは会員数の20％（千口）以上が目標です。また交付金事業の件数も日本一で、クラブがLCIF交付金事業を行うことで献金への理解が深まっています。献金ばかりではなく、交付金事業を実施したクラブの紹介や、表彰も必要だと思います。（地区コーディネーター／伊藤正和）

●334‐B地区：会長・幹事、担当役員を含む180人が参加してLCIFセミナーを開催。LCIFの事業が世界の人々のためにいかに役立っているか会員全員に知って頂くことが目標。地区コーディネーターは事業に対する強い思いと使命感とリーダーシップが無ければならないと思います。結果、多くの会員のご協力の下、昨年の実績を超えることが出来ました。（地区コーディネーター／吉田猛志）

●334‐C地区：各クラブに対して、献金ばかりでなく、交付金の活用もPRしていきます。LCIF献金推進では特にMJF200口以上を目標（会員数の7％以上）とします。これまで献金会員についての説明が不十分だった面もあり、今後は献金会員を増強しLCIF献金0クラブを無くします。（地区コーディネーター／山内盾夫）

●334‐D地区：キャビネット会議やLCIFセミナーで献金要請をしていますが、各リジョンに委員が配置されていないため、単一クラブとの情報交換が難しく組織の改善が必要です。LCIF献金0クラブを無くすための広報活動、クラブ例会訪問などを通じ、PRしていかなければならないと思います。（地区コーディネーター／大野實）

●334‐E地区：毎年、地区全体で日本・フィリピン合同医療奉仕を実施し、38回目の今年は180人が参加しました。国際協会からも高く評価され、国際アカデミー賞も受賞しました。この活動を支えているのが国際援助交付金です。LCIF献金があるから、事業を実施出来ていることを伝えています。（地区コーディネーター／北川哲男）

福島県・会津塩川ライオンズクラブ

日橋川を泳ぐ 121の鯉のぼり

CLUB REPORT
クラブ・リポート

福島県にある日橋川は猪苗代湖から会津盆地へと流れる唯一の川だ。夏には花火大会、秋には会津塩川バルーンフェスティバルが開かれる。4月末から5月の頭には、そんな日橋川の上を鯉のぼりが泳ぐ。

これは会津塩川ライオンズクラブ（田澤一夫会長／17人）が1986年から行っている事業だ。日橋川を横断するように泳ぐ鯉のぼりは、この地域では知らない人がいないほど。端午の節句の風物詩となっている。今年もその季節がやってきた。

4月27日。日橋川の河川敷には朝7時30分過ぎから会津塩川ライオンズクラブのメンバーが集まっていた。この日の予報は雨。だが、6時頃まで降り続いていた雨が止み、雲の切れ間から日が差していた。トラックからは色とりどりの鯉のぼりが次々に

●投稿要領：
アクティビティ、例会など、クラブの活動を具体的に。700字程度。写真を添付。
ライオン誌ウェブマガジンのオンライン投稿か、Eメールまたは郵送で。送付先は57ページ下。

下ろされ、メンバーがそれらを縄にくくり付けていく。近くを走る国道１２１号線にちなんだ１２１匹が取り付けられた縄は重機の上にいるメンバーへと渡され、少しずつ川を渡っていく。この重機もメンバーの会社のもので、クラブ一丸となってこの事業を行っている。毎年恒例の事業であるためか、メンバーの手つきは慣れたものだ。

今回で28回目となるこの事業だが、子どもたちの健全育成、地域活性化、交流の場を作る、という目的から始めた。ボーイスカウトの子どもたちに手伝ってもらったり、幼稚園のお花見を招待したりと盛り上げた結果、今では多くの人が訪れる場所となった。鯉のぼりを見ながら談笑する人もおり、地域の活性化に貢献している。また、川沿いということもあって、クラブでは柵を設けるなど、安全面での配慮も欠かさない。

鯉のぼりを安全に泳がせるための鉄柱もクラブが立てたものだが、この鉄柱を設置するために3年間行政との交渉が必要だった。また、当初は掲揚する鯉のぼりも少なかったが、ＰＲを重ねることによって、今では年間30匹ほどの不要になった鯉のぼりが寄付されるという。

地元住人が楽しみにしている鯉のぼり掲揚。また来年も日橋川には鯉のぼりが泳ぐ予定だ。

（取材／井原一樹　撮影／内田明人）

336-A地区

香川県・善通寺ライオンズクラブ

市民ふれあいフェスティバルで雪の滑り台

善通寺ライオンズクラブ（40人）は、毎年2月第2日曜日に「市民ふれあいフェスティバル」を開催している。この事業は、我がクラブにとって多くの市民と関わりを持ち、かつ、絆を深められる一大イベントだ。そんなフェスティバルのメーンは、雪との「ふれあい」である。

当クラブのある善通寺市は、香川県の中央に位置している。この辺りは温暖な気候で雪が降ることは珍しく、まして積もることは皆無に等しい。そのため、市民が雪と触れ合えるように、と企画したのがこの「市民ふれあいフェスティバル」だ。

当日は市民会館前の広場に雪のゲレンデが出来上がる。鉄骨等で組んだ斜面を雪で覆った、高さ約3メートル、長さ約15メートルのゲレンデだ。そこをソリで滑る。うまく滑っても、転んでしまっても楽しい。その横にはかまくらを造る。そこでは幼い子どもたちが、楽しそうに出たり入ったり。中には素手で触って雪の冷たい感触を楽しむ子どももいた。

雪は、新潟県や鳥取県江府町から運んでいる。地元運送業者の協力のおかげで市民に喜ばれるイベントが開催出来ている。

讃岐では当たり前のうどんや焼き鳥、おでんなどのバザーや献血も開催。更に、高齢者が楽しみにしている昭和初期映画の上映も行うなど、市民みんなが楽しめる1日となっている。

事業の実施に際してはボランティアとして約50人の中学生が参加してくれることをうれしく思っている。今後も継続していくが、多くの方の協力で実施出来ていることに改めてお礼申し上げたい。

（会長／内田等）

335-C地区

第3リジョン第1ゾーン（京都府）

被災地に図書購入資金を寄付

335・C地区第3リジョン第1ゾーンの5クラブ（京都平安・京都橘・京都ノース・京都洛北・京都洛央）は昨年度に引き続き、ゾーン合同で「東日本大震災復興支援事業」を実施することを決定した。年3回の合同例会やゾーン親善チャリティーゴルフ大会で資金を調達した。支援先は京都洛北ライオンズクラブの姉妹クラブ、盛岡不来方ライオンズクラブから紹介された岩手県上閉伊郡大槌町となった。大槌町ではJR大槌駅の駅舎が流出。また、町役場を津波が直撃し、町長を含む職員の約4分の1を失うなど壊滅的被害を受けた。復興も遅れており、図書が不足しているとの報告を受けた。

地元の大槌ライオンズクラブが教育委員会と相談して図書を選定し、332・B地区経由で図書購入資金として100万円を寄贈する運びとなった。この資金は大槌小学校の図書充実のために使われる。大槌小学校は津波の被害を受けた四つの小学校を統合し、今春から開校されるため、タイムリーな支援となった。

そして2月6日、ゾーン・チェアパーソンと5クラブの会長が335・C地区キャビネット事務局を訪問、キャビネットを通じて寄付の目録を大槌ライオンズクラブに贈呈した。

遊覧船が建物の上に打ち上げられた映像はまだ記憶に新しいが、その大槌町の復興に少しでも役に立てればと思っている。会員減少の影響でアクティビティの規模縮小を余儀なくされている中、合同で行うが故の有意義なアクティビティが実施出来たことを誇りに思う。

（第3リジョン第1ゾーン正副幹事会）

333-A地区

新潟県・柏崎ライオンズクラブ

1年間のケナフ栽培で環境学習

柏崎ライオンズクラブ（63人）では柏崎市立東中学校と協力して、ケナフを栽培した。環境保全と青少年健全育成が目的で、2009年から今年2月にかけて実施した。ケナフは地球温暖化防止と環境保全に適した植物とされており、非木材紙の原材料としても注目されている。当クラブとしては未来を担う中学生に環境問題を考える機会を作りたいという思いでこの活動を始めた。また、栽培したケナフから卒業証書を作ることも計画。自分たちの育てたケナフが卒業証書になるという体験がかけがえのない思い出になってほしいとの願いから活動を進めてきた。

活動は1年間を通して行う。毎年5月に行うケナフ畑のうね作りから始まり、種植え、夏の水管理。10月には種を収穫し、11月に刈り取る。そして翌年2月には収穫したケナフを卒業証書の用紙にして生徒に贈呈する。中学生たちは日々の水やりや草取りなどを通して地球環境の大切さを学んでくれたと思う。

また、当クラブでは総合学習の授業の中でケナフを使った紙すき体験を実施した。生徒たちは自分で作ったはがきを笑顔で手にしていた。

このアクティビティは当初、東中学校のグリーン部隊16人で始めたものだったが、2年目からは3年生125人全員が参加。当時校長だった布施先生からは「生徒にとっては環境学習の生きた教材になっている。また、卒業証書として結果が目に見えることが励みにもなる。ライオンズの支援は大変ありがたい」と感謝の言葉を頂いた。（環境保全・青少年指導・YCE委員会）

330-B地区

神奈川県・伊勢原ひかりライオンズクラブ

おかめ桜の植樹と記念碑建立

3月3日、伊勢原ひかりライオンズクラブ（高井男会長／48人）は「郷土の自然や環境を守り美しい自然を子や孫の世代に」との理念の下、大山阿夫利神社の裏山におかめ桜を20本植樹した。これには、大山阿夫利神社の秋季例大祭保存などの地域活動を行っている団体「阿夫利睦」にも協力して頂いた。傾斜地での作業になるため、困難な面もあったが、正午には無事、植樹を終わらせることが出来た。

この植樹は当クラブが2011年から継続事業として取り組んできたもの。初年度に植樹したおかめ桜の木はピンクの可愛らしい花を付け、行き交う人の目を楽しませると共に春の到来を告げていた。近い将来、おかめ桜が大山路と山肌を奇麗に染めてくれることを期待している。

この「おかめ桜」という名はイギリスの桜研究者が付けた名前で、学名にもなっている。何でも日本の美人をイメージして名付けたそうだ。開花時期は2月下旬から3月下旬と一般的な桜よりも少し早い。今年は寒さのために満開の時期が遅れたが、おかめ桜が咲き始めるといつもの散歩道を歩いていても、気持ちが明るくなる気がする。

今年は植樹に加え、事業の趣旨を次の世代に伝えるための記念碑も建立した。碑は大山街道に建てられ、5・7・5で「大山路　おかめ桜が　春を呼ぶ」と刻まれている。これは季節感と、何とも形容しがたいほっこりとした雰囲気を醸し出している名句だと感じた。詠み人は我がクラブに所属している三浦光一である。

（広報PR委員会／北村義昭）

大槌高校吹奏楽部の生徒を指導する呉教授

335-A地区

兵庫県・明石魚住ライオンズクラブ

大槌町の中高生が、プロのトロンボーン奏者と夢の共演

ハイブリッド・トロンボーン四重奏団の演奏を聴く大槌高校吹奏楽部、大槌中学校吹奏楽部、吉里吉里中学校音楽部の生徒たち。四重奏団はこの翌日、大槌高校の入学式で吹奏楽部員と共に行進曲や校歌の伴奏をし、その後、地元のスーパー「マスト」でも買い物客ら町民を前にミニ・コンサートを行った

4月8日、岩手県大槌町の中央公民館で、関西を拠点に活動するハイブリッド・トロンボーン四重奏団と、大槌町の中高生によるコンサートが開かれた。明石魚住ライオンズクラブ（渡邊弘道会長／13人）が企画し、大槌ライオンズクラブ（千葉繁会長／16人）の協力を得て実施した。

明石魚住ライオンズクラブは、ライオン西本吉幸が震災後の4月初旬から約3週間、大槌を中心にボランティア活動をしていた関係で、継続的に大槌町を支援。今回もその一環で、335・A地区災害支援特別委員長を務める橋本維久夫幹事を中心に、1年掛かりで計画を進めてきた。

四重奏団のリーダー呉信一京都市立芸術大学教授は、ライオン橋本の明石高校吹奏楽部時代の先輩。阪神大震災で自宅が全壊した経験を持つ呉教授は、ライオン橋本から大槌町の話を聞き、被災された方たちに音楽で元気を届けたいと提案。ライオン橋本は待ってましたとばかりに、即座に行動を開始した。そして大槌ライオンズクラブを通じて各方面に働き掛けてもらい、今回のコンサートが実現した。

呉教授は大阪フィルハーモニー交響楽団の元主席トロンボーン奏者で、その門下生である他のメンバーはいずれも国内の交響楽団で活躍している。この日の前半は四重奏団がプロの音を披露。後半では大槌の中高生約50人と共に吹奏楽の定番「星条旗よ永遠なれ」や「宝島」、そして大槌の蓬莱島がモデルとされる「ひょっこりひょうたん島」のテーマソングを演奏し、町民に大きな感動と元気を届けた。

「一緒に演奏をしながら、きらきらと輝く子どもたちの目を見て、本当に来て良かったと思いました」と呉教授は話していた。

（取材／鈴木秀晃）

今回の事業には高野文男335-A地区ガバナーも同行し、神戸から大槌に分灯された「希望の灯り」の維持管理費として50万円を千葉龍二郎332-B地区ガバナーに託した

332-C地区

宮城県・仙台青雲ライオンズクラブ

被災地の子どもたちに のびのびと遊び学ぶ場を

3月23日、石巻市小渕浜地区の仮設給分浜後山団地で「ライオンズクラブこどもハウス」の開所式が行われた。仮設住宅に子どもたちの遊び場を贈るこの事業は、仙台青雲ライオンズクラブ（遠藤誠会長／17人）が計画。トレーラーハウス購入費用としてLCIF東日本大震災指定交付金257万2500円を受けた他、仙台青雲ライオンズクラブに支援金を託したアメリカのロサンゼルス・リトルトウキョウ、石川県・小松青雲の両クラブ、更に石巻中央、仙台、仙台宮城野、仙台瑞鳳、仙台第一と多くのクラブの協力で実現した。

小渕浜地区は牡鹿半島の中ほどにあり、約150戸350人の大半が漁業を生業に暮らしていた。入江に面した集落は津波で住宅の8割が全壊。仙台青雲ライオンズクラブはこの小渕浜と近隣地区を学区とする市立大原小学校（児童数22人）の子どもたちを支援し、温泉やスキー旅行へ招待するなど心を通わせてきた。そんな中、小渕浜地区のPTAから、子どもが安全に遊べる場所が欲しいと相談を受けた。

家を失い仮設住宅に入った住民たちは、隣近所を気遣って息を潜めるように生活している。子どもたちは「静かに」「走り回らないで」と注意されて、思い切り遊ぶことも出来ない。地区住民の懸命な努力で浜の仕事も再開し、親たちが安心して働くためにも、住まいの近くに子どもが集える場所が必要だった。

このこどもハウス贈呈の事業費は、トレーラーハウス本体の他に数年分の水道光熱費など維持管理費も含め総額約700万円。いわゆる箱物だけの支援で、後になって地区住民に重い負担がのし掛かることのないように配慮した。

開所式で佐藤義則地区ガバナーが「遊び場だけでなく勉強部屋として、のびのびと使ってください」と語り掛けると、子どもたちは大きくうなずいた。また笹野健副市長からは、「ライオンズの皆さんの支援は被災者に温もりを与え、笑顔にするよう心が配られている」と、亀山紘市長の感謝の言葉が伝えられた。

開所式後、中に足を踏み入れた子どもたちは「ひろーい！」と歓声を上げた。畳8畳分に簡易キッチンとトイレ付きの室内は、それほど広いものではない。しかし彼らにとっては、自分たちのために用意された大切な自由空間なのだ。（取材／河村智子）

千葉県・上総ライオンズクラブ

東日本大震災被害の旭市に黒松の苗木50本と支援金寄贈

3月10日、上総ライオンズクラブ（月崎和雄会長／45人）の環境保全委員長であるライオン石橋英男を始めとした4人は千葉県の旭ライオンズクラブを訪問し、加瀬朝壹会長ら3人に出迎えてもらった。

旭市は東日本大震災の津波で大きな被害を受けた地域であるため、当クラブからは黒松の苗木50本と支援金5万円を寄贈した。

ライオン石橋は「明日の3月11日で、あの大震災から満2年が経ちます。旭市は津波による被害で海岸の黒松の多くが枯死しました。今日は黒松の苗木を持参しましたので、適した場所に植えてください」とあいさつ。加瀬会長からは「遠方からありがとうございます。頂いた黒松は近く、植樹計画の中で植えさせて頂きます。支援金も頂き、感謝しております」とお礼の言葉があった。この後、昼食をとりながら双方のクラブの運営などについて話し合い、親睦を深めた。

乗用車から見た海岸では、沿線の黒松が津波の影響でかなり枯死しているのが確認出来た。改めて当時の恐ろしさが感じられ、寄贈した苗木が早く活着して大きく育ち、元の防風林のようになることを願った。

寄贈した苗木は3年前の3月、私が松ぼっくりから種子を取り出してまき、育成したもの。元々は植樹をし、地球温暖化防止に役立てようと生育させていたものだったが、震災の復興に使って頂こうと考え、寄贈することにした。

当クラブは東日本大震災の被災地へ数回にわたり支援金を贈っており、一日も早い復興を願っている。（PR情報会報編集委員長／斎藤敏夫）

兵庫県・尼崎レオクラブ

手書き看板で献血推進活動

尼崎レオクラブ（23人）は2012年の11月から、毎月第3土曜日に献血推進活動を行っている。3月16日にも今期5回目となる献血推進活動を行い、7人が参加した。この日は「けんけつちゃん」の着ぐるみも着用し、道行く人に献血を呼び掛けた。また、今までティッシュや風船を配っていたが、新しい試みとしてスーパーボールも配ることにした。着ぐるみの着用や風船、スーパーボール配りは子どもの興味を引き、その親御さんに献血を呼び掛けるため行っている。

また、今回は看板も作った。「けんけつちゃん」のイラストに「献血にご協力お願いしますっち！」と「けんけつちゃん口調」のメッセージを添えるなど親しみやすいものを作るよう心掛けた。この看板によって多くの人に、より直接的に私たちの訴えを伝えることが出来た。また、パソコンで作成した看板ではなく、手描きのものを使用したことにより、注目されやすく、心の込もった仕上がりになっていると、献血ルームの方にも褒めて頂いた。私たち自身にとっても、用意されたものを使うのではなく、自ら作成することで、より献血への意識が高まったと感じている。

第4回目の献血推進活動では、親御さんが献血をされている間、子どもを預かるキッズルームで折り紙を教える折り紙教室を実施し、好評だった。しかし、第5回では実施出来なかったため、今後はまた導入していきたいと考えている。このようにこれからも、私たちに出来る献血推進活動を積極的に行っていくつもりだ。

（会長／堤希帆）

331-C地区

北海道・厚真ライオンズクラブ

厚真小中学校 スピードスケート記録会後援

厚真ライオンズクラブ(29人)は1974年9月に36人のチャーター・メンバーで結成、認証され、来年40周年を迎える。「心をつないでウィサーブ」を掲げ会員一同、社会奉仕に汗を流している。

当クラブでは青少年の健全育成に力を入れており、その一環として2月9日、厚真町小中学校スピードスケート記録会を後援した。これは厚真町教育委員会主催の大会で、当クラブは83年から後援している。

今年は中学生が全国大会出場で参加出来なかったが、町内の小学校から67人の児童が参加。子どもたちは奇麗に整備された銀盤の上で記録更新を目指し、懸命に滑っていた。この日は小納谷守会長を始め会員10人が出席。熱い声援を送り、参加者全員に参加賞を手渡した。

会場には大勢の保護者や家族、学校関係者が集まり、力の入った応援をしていた。来場者には温かい飲み物などが振る舞われ、皆長く厳しい冬の一日を楽しくにぎやかに過ごしていた。

参加者の中には全道・全国大会に出場する子どもたちも数人おり、今後の活躍が期待される。

冬の北海道の屋外スポーツといえば、スキー、スケートだが、特にアウトドアでのスケートリンク作りには大変な苦労を要する。関係者は子どもたちの健全な成長を願い努力しており、子どもたちも少なからずリンクの上で応えていると思う。この大会が33回続いているのもその表れである。

当クラブではこれからも大会が続く限り、子どもたちの満面の笑顔を求めて応援し続けたいと思っている。(幹事/宮西政志)

332-C地区

宮城県・白石益岡ライオンズクラブ

市民向け薬物乱用防止講演会

白石益岡ライオンズクラブ(13人)は、2012年12月6日に、「ダメ。ゼッタイ。薬物乱用防止講演会」を332・C地区第2リージョン第2ゾーン合同事業として白石市中央公民館で開催し、市民94人が参加した。

当クラブでは07年から薬物乱用防止教室を開催してきた。白石市内や仙南地区の小・中学校、高校に出向いてきたが、今回は初めて一般市民を対象に開催した。広く参加を呼び掛けるため、チラシを作成し、白石市の広報にも掲載して頂いた。

講師は宮城県薬物乱用防止指導員でありライオンズクラブ薬物乱用防止教育認定講師(ゴールド認定)のライオン富岡和弘。初めて市民向けに講演するため、100枚のパワーポイントを新たに作成した。2時間程の講演だったが、会場はシンと静まり返り、誰一人途中で席を立つ人はいなかった。

参加者からは「薬物の恐ろしさを十分理解出来た。若い世代にもっと知ってほしいと思った」など多くの感想を頂いた。

以前、高校の薬物乱用防止教室に参加した時のことだ。ライオン富岡は私たちを「私の仲間です。今日は私の応援ではなく、君たちを励ましに来ました」と紹介した。そして最後には「ダメ。ゼッタイ。どうかお願いします」と頭を下げた。未来ある生徒たちを薬物乱用から守りたいという、ライオン富岡の思いはあの時の高校生たちに伝わったことだろう。

近年、脱法ドラッグが毎日のように新聞に掲載されている。薬物に手を出してしまう若者がいなくなるよう、周囲がしっかり見守っていかなければならないと改めて実感した講演会だった。

(会長/髙橋恵美子)

336-C地区

広島双葉ライオンズクラブ

観光カリスマとスーパー高校生による「市民公開講演会」開催

2月27日、広島双葉ライオンズクラブ（新勝年会長／39人）は初めての試みとして市民公開講演会を広島市中区のエンジェルパルテで開催した。これはライオンズクラブのPRと新会員の掘り起こしを狙ったものである。講師には地域社会の活性化を手掛けてこられた愛媛県双海町の若松進一さんと福岡市在住の高校生の山本みずきさんを選んだ。

第1部の若松さんは、双海町を「しずむ夕日が立ちどまるまち」として町おこしを成功させた立役者だ。日頃見慣れている「夕日」を地元の資源と捉えて新たな心を込め、双海町を県内屈指の観光地にしていった手腕は評価が高く、若松さんは2000年には観光庁によって観光カリスマに認定された。講演では、「地域おこしは、地元民が中心となるものであり、主役となる必要がある」と強調された。

第2部を担当して頂いた山本みずきさんは、世界を飛び回るスーパー高校生として活躍している。彼女は小学3年生から外国留学をし、地元福岡市の観光大使を務めたり、国連訪問をして英語でスピーチをしたりしている。そんな海外経験についての話をして頂いた。とても雰囲気が良く、「日本の将来は明るい」と感じさせる学生だった。

今回、新会員の獲得は実現しなかったが、参加者の中からアンケート回答が得られた。地域おこしの話に賛同するものが多かったが、青少年交換（YCE）プログラムに興味を持つ方から、詳しく話を聞きたいとの回答もあった。（PR会報委員長／大田典也）

335-D地区

兵庫県・福崎サルビア ライオンズクラブ

東日本大震災復興支援 幸田浩子ソプラノリサイタル

3月3日、福崎サルビアライオンズクラブ（19人）は市川ひまわりホールで、東日本大震災復興支援コンサート「幸田浩子ソプラノリサイタル」を開催した。

当クラブは、一昨年の東日本大震災を受けて東北に向けたさまざまな支援事業に取り組んでいる。2012年10月には「被災地の皆さんと楽しいひと時が過ごせそう」と岩手県大槌町でお茶会と演芸・カラオケ大会を計画、実施した。その際に現地へ出向き、被災地を目の当たりにし、支援の重要性を痛感した。

また、11月に点灯した「大槌希望の灯り」の維持費支援を継続事業とすることにした。

今回のコンサートでは大槌ライオンズクラブのL八幡幸子から、「大槌希望の灯り」支援に対する感謝状を頂戴した。当クラブからは今回のコンサートのチケットの売り上げと事業費を合わせ、青少年健全育成資金として100万円を寄贈した。L八幡はスピーチの中で、私たちが訪問した時の様子や、現地の状況を涙ながらに話してくださった。

世界的なソプラノ歌手である幸田浩子さんによるリサイタルは、音大出身の二川恵美会長の念願でもあったものだ。その会長の思いがかない、また東北の子どもたちへも私たちの思いを届けることが出来た。当日は、幸田さんの奇麗な歌声に、ホールいっぱいのお客様は時を忘れて聴き入っていた。

最後は東日本大震災応援チャリティーソング「花は咲く」を会場の方々と大合唱。が、L八幡は、涙、涙で歌にならない様子だった。（PR・IT情報委員長／小幡敬子）

●獅子吼（ししく）
①仏が説法するのを、獅子が吼えて百獣を恐れさせる威力に例えていう語。
②大いに熱弁をふるうこと。（広辞苑）
●投稿要領：
会員及び家族によるエッセー、提言など。1,600字程度

長野県のライオンズクラブとロータリークラブのガバナーが初対談

佐久 秀幸（長野県・諏訪湖）

ライオンズクラブとロータリークラブは社会奉仕組織の双璧です。社会奉仕に大きな役割を果たしている存在なのに、両者はそれぞれ独自に活動を展開しており、連携して実践した例はほとんどありません。ライオンズクラブ国際協会334・E地区（長野県）の山下徹静ガバナーが、国際ロータリー第2600地区（長野県）の島田甲子雄ガバナーに呼び掛けて、初めての対談が実現しました。

この画期的な対談は2月27日、長野市の松代ロイヤルホテルで1時間半にわたり行われ、奉仕の在り方、連携の必要性と可能性、双方が抱える奉仕の夢や悩みなどを率直に語り合いました。直ちに連携して奉仕活動の実践とまでは至りませんでしたが、今後も情報交換と話し合いは継続していこうという点で一致しました。

ライオンズクラブの基本理念は「We Serve（我々は奉仕する）」。一方、ロータリークラブは「I Serve（私は奉仕する＝職業を通じて奉仕する）」。それぞれの組織の理念や具体的活動について報告し合い、理解を深め合いました。

山下ガバナーは334・E地区の最も大きな活動として、日本・フィリピン合同医療奉仕を挙げ内容を説明しました。38年間も続くこの活動は、国際的にも大変高く評価されています。この他、献眼・献腎プログラム、昨年長野県とライオンズが締結した連携協定、青少年育成プログラムにも話が及びました。

イラスト／小川和政

島田ガバナーは近年力を入れている、青少年育成を目的にした新世代奉仕活動を挙げました。ロータリークラブには12～16歳の子どもたちで構成されているインターアクトクラブがあり、それを新世代奉仕活動の一環として援助しているそうです。そして、国際ロータリーが長年取り組んできたポリオ撲滅運動と、主に東南アジアの留学生に奨学金を援助する、日本のロータリー独自の「米山記念奨学金」事業を紹介されました。

両組織共、青少年育成に力を入れており、思いやりの精神の育成や荒波に

びくともしない強靭な心と体をつくってもらいたいという希望を語り、その手助けを精一杯していきたいと決意を述べ合いました。

共通の悩みはやはり会員減少でした。新会員の加入がなかなか難しい状況の中で、オリエンテーションの強化や親睦を深めるための新しい例会の工夫が必要との認識で一致。会員を維持するために最大限の努力をしていることを報告し合いました。

趣味の話では重なる部分が多いようです。山下ガバナーは音楽が趣味で、聴くのも演奏するのも好き。中学時代からサクソフォンを演奏し、玄人はだしの腕前です。島田ガバナーは本人曰く「柄にもなく謡曲」が趣味。宝生流の謡いを長く続けているそうです。

初対談は両者の理念、方法論などに理解を深める良い機会になったと思います。これを契機に共に奉仕活動を通じ地域の発展に寄与していくことを、両クラブ・メンバーも願っていると思います。

（334‐E地区PR・ライオンズ情報委員長）

指導力レベル向上セミナーに出席して

左近充 尚典（東京葛飾）

一昔前、と言っても26年前、私がライオンズクラブに入会した当時、先輩から聞いた話です。

旅行例会の列車の中で、あるメンバーがライオンらしくない振る舞いをしたのです。その目に余る行動に、次の理事会で全員一致でその人を除名処分にしたとのことです。

また、私の経験ですが、国際大会に参加するために外国へ行った時のこと。一人の女性が駆けてきてエレベーターに乗り込もうとしましたが、間に合いませんでした。その時、既に乗っていた別のクラブのメンバーが薄笑いをして「いい気味だ」とつぶやいたのです。私はゾッとしました。些細なことですが、私はこの人もライオンなのだろうか?と疑いました。この人は後に退会したそうです。

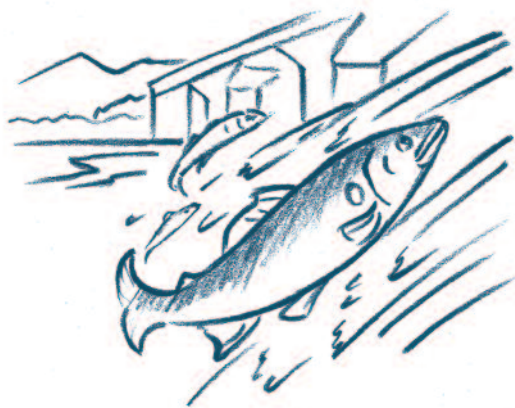
ボランティアは相手に好意を持ち、人を愛する気持ちが根底にあると思います。私たちライオンズが慈愛の心で助けを必要としている人々に手を差し延べることこそ、勇気あるボランティアだと思います。メンバーはその上に、ライオンズクラブの伝統と奉仕に誇りを持っていると信じています。必ず持たなければいけない規則はありませんが、クラブの歴史やライオンズたるものの存在をよく知り、自分の置かれた立場をよく理解して初めて、ライオンらしい活動が出来るものと信じます。

1月28日、330‐A地区指導力育成委員会主催の「指導力レベル向上セミナー」に出席しました。木島庄市委員長のお話はとても有益でした。こうした内容を、もっと多くのライオンにも勉強してほしいと思いました。思わず隣の席のライオンと話しました。「若いメンバーにも、もっと大勢出席してほしいですね」と。

昔から言われていることですが、「郷に入っては郷に従え」の心構えを持つことです。ライオンズのことをもっと知り、理解を深めて奉仕に取り組んでほしいと思います。プロトコールを記憶する必要はなくても、ある程度の決まりは知っておくべきです。例会、理事会、行事、そしてライオンズの歴史。

それによって自然に襟は正せられるものです。
　昔は先輩が一席設けて、クラブ内で指導力育成委員会を開いてくださり、いろいろと勉強させて頂きました。そしてライオンズクラブの精神を会得しました。
　私の案ですが、入会時の必要条件として、①例会には必ず出席しましょう。②会費は期日内に納めましょう。③与えられた役目は必ず受けて忠実に実行しましょう。以上の約束事に加えて、「入会3年以内に地区レベルの指導力育成セミナーに参加しましょう」を入れると良いと思います。そして胸に付けたライオンズ・バッジに恥じないライオンとして、ますます奉仕に励んでほしいです。

「アカデミー賞」

燕昇司 信夫（富山県・高岡志貴野）

　2013年アカデミー賞は、作品賞「アルゴ」、主演男優賞に「リンカーン」のダニエル・デイ・ルイスと発表された。もしライオンズにもアカデミー賞があったら、私はライブ作品「白寿を祝う会」、主演男優賞はライオン井村東司三（高岡古城ライオンズクラブ）を選ぶ。
　題名「白寿を祝う会」　上演13年3月5日　高岡市射水神社「瑞祥の間」
「私はライオンズが大好きです、私はライオンズが大好きです」
　主役のライオン井村東司三は99歳にしてかくしゃくと力強い声で観客に感動を与え、拍手の渦で「白寿を祝う会」は佳境に入る。井村敏子を相手役に演ずる2時間余りのストーリーを鑑賞するのは、99人のライオンズ関係者である。
　訥弁ではあるが、彼の色っぽい話術は、間合と抑揚、人の心を揺さぶる不思議な魅力がある。5尺の小躯、眼光炯炯として少年のような輝きを放ち、医者としての威厳である整った口ひげ、安定感ある太い眉、99の春秋を見てきた額のしわは博学才穎。12年7月には、角膜移植医療の実践及びアイバンク活動の推進に著しく貢献した個人や団体に贈られる「今泉賞」の栄誉に輝いた。
　今もなお、結成以来のクラブ例会出席を続ける白寿翁。メルビン・ジョーンズがライオンズクラブ創設に、ライオン石川欣一が東京ライオンズクラブ結成に尽力された時の「情熱と希望」が乗り移ったかのように、64年高岡古城ライオンズクラブ結成に加わり、334-D地区の礎を築かれた。82年地区ガバナーの任に携わり、91年には、アイバンク後進県の汚名返上をと、富山県アイバンク設立にこぎ着けた。
　01年の出来事を述懐してみると、白寿翁を忖度することが出来なかった。私はライオンズの奉仕活動について「アイバンクの男」と大論争をしたことがある。アイバンクの男、すなわちライオン井村は、25年の国際大会で「三重苦の聖女」と言われたヘレン・ケラー女史が訴えた、視覚障害者の支援を淡々と

語る。私は、奉仕活動の多様化に対応した事業費の配分を力説した。理由は県内のライオンズクラブと県の助成金により、富山県アイバンクの資金は潤沢にあり運営されていると思ったからである。当時私は視覚障害者のために点訳奉仕活動をし、視覚障害者の置かれている実態も十分把握していた。

その後、アイバンクへの助成金が減額となり、アイバンク運営に多大な影響を与えた。そして白寿翁とは気まずい関係に陥った。

しかし01年『ライオン誌』の獅子吼に「1粒のチョコレート」を投稿し掲載されると、白寿翁から称賛のはがきが届いた。これを機に、白寿翁と年賀状のやり取りが始まり、豊かな心に触れるのである。

舞台は白寿翁への99本のチューリップの花束贈呈へと移る。司会者が「ちゅうりりっぷの辞」を朗読する。

「『馬齢を重ね……』という賀状に思う。生涯薫陶(くんとう)を受ける人は多くない。駿馬に一歩、いや一跬(いっけい)でも近づきたい。ライオンズクラブは何と尋ねられると、畢竟(ひっきょう)『井村東司三』の存在こそライオンズクラブの矜持である。事新しく述べるまでもない」

朗読の声が耳に心地よく響き、少年は刮目して待つ間、私は「ちゅうりりっぷの辞」を捧げながら一歩二歩と白寿翁の前に進む。大論争を思い出しながら花束を手渡した時、奉仕の心に齟齬(そご)が無いことを少年の眼が語り、私の心に滋潤を与えてくれた。

世界135万有余のライオンの中に白寿翁のような人が存在するのだろうか。「白寿を祝う会」はどんな映画よりも感動を覚えた。この一日だけの封切映画は、観客に改めてライオンズ会員であることへの誇りを抱かせたであろう。

彼の人生は多くの褒章と栄誉に包まれているが、「ライオンズが大好き賞」が最もふさわしいと考えるのは私だけではない。

ライオン井村がライオンとして掉尾(ちょうび)を飾るのは、その角膜が摘出され、無事移植された時であろう。

「我が生涯、最後の奉仕は献眼」と、口癖のように唱える言葉、そして崇高なライオニズムを私たちは後世に伝えたい。

記念の色紙には「祖国愛　自由と知性　豊かな心」と書かれていた。

第1回ライオンズクラブ日本大学OBによる集い「桜友会」

藤井　清一（東京桜門）

ライオンズクラブ桜友会は330－A地区内のメンバーが中心となり、ライオンズクラブに所属する、日本大学出身者の交流を広げていくことを目的として発足致しました。

親睦を深め、各クラブの発展に寄与していくと共に、母校日本大学と後輩学生たちの活動に対して積極的な支援と協力をし、母校の発展と次代を担う若者の育成に努めていくために、年間1～2回程度の開催を目指しています。

第1回目として2013年2月20日水曜日に、日本大学桜門会館において開催。総勢100人を超える有志が集まりました。334－B地区から国際第2副会長候補のライオン山田實紘（岐阜県・美濃加茂ライオンズクラブ／日本大学医学部OB）が大会会長として参加され、また阿久津隆文330－A地区ガバナー（東京赤坂ライオンズクラブ）も日大OBとし

て出席されました。ご来賓としては山浦晟暉元国際理事（東京新宿ライオンズクラブ）もいらしてくださいました。

現役後輩たちの空手演武やチアリーダーによるアトラクション、全員で校歌を歌い日大節に酔いしれ、懐かしく昔に戻り、そしてこれからなお一層の友情を深め、各クラブでがんばっていこうという、連帯感を深めた楽しいひと時を収めることが出来ました。

ライオンズクラブは世界で135万余の会員を擁する世界最大の国際的奉仕クラブ組織です。一方母校日本大学は、6年後に創立130周年を迎える歴史と伝統を持ち、卒業生が106万人を超える総合大学です。同じ学び舎より巣立ち、同じ組織で奉仕活動に励む仲間同士が、いろいろなことを真摯に語り合い、奉仕の精神と母校愛の下、創造性豊かな新たな奉仕活動に挑戦し、ライオンズクラブの発展に寄与していくことが私たちメンバーの大事な役割の一つであると感じております。

今後は330－A地区にとどまらず、全地区のOBメンバーとも交流を持ちたいと考えております。どうぞ皆様ご賛同の上ご支援頂きたく存じます。

ここで日本大学出身者のメンバー各位にお詫びとお願いですが、第1回目の集いは正式な名簿が無いため、開催のご連絡に不徹底がありました。申し訳ございませんでした。今後の運営を迅速に進めるため、今回の開催通知連絡が未着だった方は以下にファクスでご一報くださいますようお願い致します。

またホームページも公開しておりますので「日本大学OBの皆様へ」のページからアクセス頂くことも可能です。

◆連絡先
東京都中央区銀座2－8－19　GINZA 2nd Ave.3 ビル5F
Fax：03－3562－6151
URL：www.netfile.co.jp/ouyukai/
発起人代表：ライオン藤井清一（330－A地区キャビネット幹事／東京桜門ライオンズクラブ）

Close up

親子孫3代で砥部焼230年の歴史を継承する

■酒井芳美

さかい・よしみ　1931年愛媛県砥部町生まれ。砥部焼作家（号：酒井芳人）。㈲五松園窯代表取締役。伝統工芸士（ロクロ部門）。愛媛県無形文化財保持者。日本工芸会正会員。一水会陶芸部委員。愛媛県美術会参与。現代の名工（2000年）。82年砥部ライオンズクラブチャーター・メンバー。88年度クラブ会長。現在、息子の好史さん、孫の亮太さんと共に、3世代でさまざまな磁器を制作している。

砥部焼の起源は、江戸後期の安永6（1777）年で、初めて白磁器の焼成に成功したのがこの年だと言われています。当時、有田や波佐見などと共に、磁器の産地として知られていた長崎県の長与から、5人の陶工を招いて指導を受け、3年近い歳月を経て出来上がったそうです。この関係で、砥部ライオンズクラブは長与ライオンズクラブと姉妹提携を結び、交流を続けています。

昔は大勢の職人を抱える大きな窯元が七つか八つあり、分業で焼いていたようです。私の祖父はその一つ「愛山窯（あいざんがま）」という全国的にも有名だった窯元で絵付師として働いていました。しかし、大正時代の終わりに愛山窯が倒産してしまい、祖父は県立工業試験場長を勤めた後、昭和6（1931）年に窯を構えて独立しました。砥部には現在、組合に入っていない人も含めると100軒ほどの窯元がありますが、それらの多くも祖父と同じように大きな窯から独立した人たちです。

祖父は楽焼の装飾品や皿などの生活陶器を作っていました。母方の祖父だったんですが、女系家族であったことから、長女の子どもである私が、5歳か6歳の時に養子として入ったそうです。私は17歳の頃から少しずつ仕事を教わり、祖父が倒れたこともあって、21歳で跡を継ぐことになりました。そのため、当初は私も祖父と同じようなものを焼いていました。

本焼を始めたのは30代になってからです。若い陶工で「陶和会」という会を作り、一緒に勉強をしたり、技術を教え合っていました。私がろくろを学んだのも陶和会でした。そうしたことを経て、いろいろなものにチャレンジして、自分自身、納得いくようなものが出来るようになったのは、40代になってからですね。

私が主に作っているのは、白磁の中でも青白磁（せいはくじ）と呼ばれるものです。「影青（インチン）」とも言って、釉薬が文様の溝にたまって青みを帯びている磁器のことです。具体的には、最初にロクロをひいて、軟らかいうちに櫛で草花などの彫り模様を入れます。その後、竹や桜の木で作った薄いへらで手跡が残らないよう奇麗に成型し、それを一度素焼きにして、更に青白釉をかけて本焼きにします。そうすると、櫛で彫った所に釉薬がたまり、青が沈むというか、青がより濃くなって現れるわけです。

写真・構成／鈴木秀晃

おすすめの ippin

三重県伊賀市

寿き焼

伊賀肉を専門に扱う老舗の精肉店「金谷」。2階は食事が出来るようになっており、そのイチ押しメニューが、「寿き焼」。美食家としても知られる池波正太郎が、エッセー集『食卓の情景』にも取り上げた絶品だ。

金谷のすき焼きは伝統的な関西風で、割り下は使わない。ベテランの仲居さんが、鮮やかな手さばきで焼いてくれる。見ていると、使い込まれた南部鉄の鍋に牛脂をなじませ、まず肉を一枚だけ焼き始める。そして砂糖と濃口醤油で味を整え、「どうぞ」と勧めてくれる。肉本来のおいしさを味わってもらうためだという。

100年以上も伊賀肉を専門に扱ってきた店だけに、肉そのものがいいのだろう。最近は「霜降り信仰」と言われるほど、サシ偏重の傾向が強いが、金谷の伊賀肉はサシが適度に入り、うまみもしっかりと残っている。これなら年配の方でも、たくさん食べられそうだ。野菜も地の物を使っており、全ておいしく頂けた。

●「元祖伊賀肉金谷本店」三重県伊賀市上野農人町434

ふるさと探訪

茨城県 常総市　文／砂山幹博　写真／田中勝明

鬼怒川水運隆盛の名残をとどめる河港町

坂野家住宅の表門（薬医門）。現在は水海道風土博物館として整備されているだけではなく、ドラマや映画の撮影にも度々使われている

町を東西に二分する鬼怒川に架けられた豊水橋は町の大動脈。取材時には何度も往復した

常総

JOSO

水運の中継地として発展

常総市は、2006年に常総平野（関東平野の一部）の中心地であった旧水海道市が、隣接する旧石下町を編入合併して誕生した新しい市だ。常総市としての歴史は浅いものの、歴史好きの興味を引く史跡を数多く残すエリアである。石下は坂東武士発祥の地で、平将門生誕の地とも言われている。また、坂上田村麻呂がこの地で馬に水を飲ませたことに由来する「水飼戸（みつかへと）」が、水海道という地名の起源だという。いずれにせよ、平安時代には既に鬼怒川両岸に定着して稲作を行う集落が存在した。

市の東端には、今も鬼怒川に並行して小貝川が流れているが、もともとこの2本の川は市街の南側で合流していた。そのため、雨が降ろうものなら河川はすぐに氾濫し、人が定住出来るような場所ではなかった。江戸時代の初め、氾濫防止と水田耕地拡大のために河川改修工事が行われ、2本の河川は分離。鬼怒川は利根川に注ぐよう付け替えられ、町は大いに隆盛する。水路が整備されると、下総（千葉県北部）や下野（栃

茨城県 常総市

茨城県の南西部、都心から約50㌔圏内に位置する内陸の町。南北約20㌔、東西約10㌔の市域を一級河川の鬼怒川が縦に貫き、西部は丘陵地に、東部の低地部は広大な水田地帯となっている。住宅団地や工業団地、ゴルフ場なども造成され、近郊整備地帯として都市機能の強化も図られている。

総面積／123.52平方㌔

総人口／63,954人（2013年3月1日現在）

木県）、更には会津方面の物資が多く集まるようになり、この地から江戸への水運が盛んになったのだ。いつしか河岸には、豪商や有力問屋が軒を連ね、
「鬼怒川の水は尽きるとも、その富は尽くることなし」
と、たたえられるまでになった。
　有力な問屋の一つである五木田家は、代々宗右衛門を名乗り「五木宗」と称していた。醤油の醸造販売の傍ら廻漕業も営み、会津藩の廻米を商うなど水海道河岸の中心的な役割を担っていた。往時の繁栄ぶりを今に伝えているのが、豊水橋のすぐそばにある五木宗レンガ蔵だ。醤油を醸造していた頃の明治時代後期に建てられた建物で、レンガ蔵では珍しい3階建てがひときわ目を引く。何でも、建物に使われているレンガも五木宗で製造されたそうで、一時は商品として江戸方面へ出荷されていた。市内を散策している際にも、幾つかレンガ造りの建物を見かけたが、これらも恐らく五木宗で作られたものだという。
　目の前の鬼怒川には、河岸がにぎわっていた頃の面影はないが、国道354号線が交わる豊水橋のたもとには、明治時代に木製だった頃の豊水橋の痕跡や、大正時代の橋脚基部がわずかに残されている。

五木宗レンガ蔵は、明治後期の建物。ここが醤油の醸造所だった頃の名残だ

アクセス抜群、ロケの町

東京都心から50キロ圏内、鉄道や高速道路などを利用すれば1時間弱というアクセスの良さから、ここから東京へ通勤する人も少なくない。加えて、自然や歴史的建築物が多く残されていることから、映画やドラマのロケ地として頻繁に利用されている。
　江戸時代の豪農の生活をうかがい知ることが出来る「坂野家住宅」も、市を代表するロケ地の一つだ。特徴的な屋根を持つ母屋もさることながら、本来は武家屋敷に設けられる豪壮な表門（薬医門）からは、享保年間（1716〜35年）に始まった飯沼の新田開発で財をなし、この地方の惣名主的存在であった豪農坂野家の格式がしのばれる。母屋と表門は国の重要文化財に指定されているだけではなく、1ヘクタールにも及ぶ広大な敷地と共に、これまで幾度となく時代

昭和27年に中学校として建てられた建物は現在、宿泊も出来る青少年の家として利用されている。どこか懐かしい佇まいから、ロケ地に選ばれることもしばしば

時代劇の街道のシーンの撮影がよく行われるという安楽寺の杉並木。水海道ライオンズクラブの皆さんで記念写真

明治45年の創業以来、手作り麹にこだわり、昔ながらの製法で丁寧に作られる味噌。全国にファンも多いという
▲荒井味噌㈱（TEL.0297-22-0274）

米どころでもある常総には、昔ながらの手焼きせんべい店が幾つかある。炭火の上で何度もひっくり返されて焼かれるせんべいは、一口ほおばると優しいお米の味がした ▲本橋せんべい店（TEL.0297- 22-2173）

劇や映画のシーンに登場している。

　時代劇のロケ地では他にも、徳川家康の孫である千姫の菩提寺「弘経寺」や、菅原道真の第三子が創建したと言われる大生郷天満宮、元三大師の名で親しまれる古刹「安楽寺」などがある。全長３００メートルもある安楽寺の杉並木は、弥次喜多が旅した街道の雰囲気そのものだ。

　常総市では撮影相談の窓口となり、実際のロケをスムーズに進めるためのフィルムコミッションを設立し、常総市の知名度アップと観光及び町の活性化を図っている。ウェブサイトにはロケ地マップが用意されており、どこでどんな作品が撮影されたかが公開されているので、興味のある方は一度訪れてみてはいかがだろうか。

茨城のリトルブラジル

　市内を散策していると、見慣れないマークの銀行が目に入った。ブラジルの銀行だという。その並びにはポルトガル語の案内版が掲げられた店舗、更に先にある水海道駅のロータリーには、外国人向けのスーパーマーケットがあった。常総市では現在、外国籍の住民が急増している。その多くが、この地域からブラジルへ移民した人たちの子孫だ。公称４千人だが、実際には5千人はいると言われている。こうした人々の多くは、市内に幾つかある大きな工業団地内の工場に就労している。そんなわけで町の所々で「ブラジル」を感じるのである。

　件のスーパーにお邪魔した。店内にはポルトガル語が書かれた日用品や家電、見慣れない食材などが並ぶ他、ブラジル系の旅行代理店まであった。

　その中に、ブラジル風のファストフードが食べられるフードコートがあったので、ブラジルではポピュラーだという軽食「パステウ」を注文してみた。薄いパイに似た生地にチーズや鶏肉、牛肉などの具を乗せ二つに折って揚げたもので、生地には山芋の粉が使われているそうだ。注文が入ってから作り始めるので、出来立てをアツアツの状態で食べられる。食べ慣れない料理ながらも、ブラジル風の揚げパイといった感じでとてもおいしく頂けた。

　ブラジル人向けのスーパーだけあって、珍しいお菓子や食料品の品ぞろえは豊富。ブラジリアンフードを体験するついでに、土産探しに立ち寄ってみてはいかがだろうか。

フードコートで「パステウ」を注文。ブラジル風揚げパイといったところか

水海道駅前のブラジル人向けのスーパーマーケット。お客さんのほとんどがブラジルの人だが、日本語も通じるので気軽に買い物を楽しめる（撮影強力：SUPERMERCADO TAKARA）

外国銀行が出張所を構えるほど、ブラジルを始め中南米から日系人が移り住んでいる

昭和36年に染色家有志120人が市内に染色村を設立して、伝統ある染色の維持発展に努めてきた。村内には、友禅染やロウケツ染、藍染などの作品展示や染色体験が出来る工房もある
◀佐古染色工芸館（TEL.0297-27-2053）

▼取材協力クラブ
水海道ライオンズクラブ（片野茂会長／32人）＝1976年5月23日結成／スポンサー：岩井ライオンズクラブ／

家庭でしまいっ放しになっている、かつて子どもや孫が親しんだ児童図書や、おもちゃなどを集めて児童施設に贈る「サンタクロースの宅急便」事業を2012年に開始した。市民の協力で約9千点のおもちゃが集まり、12月25日にメンバーがサンタクロースの姿に扮して保育園や幼稚園など10の施設へ直接届けた。クラブ初となるこのアクティビティは、今後3カ年の継続事業。今回は旧市街地エリアが対象となったが、次年度以降は東エリア、西エリアでも実施する予定だ。

クリスマスに図書やおもちゃを届けた幼稚園へお邪魔した。子どもたちは、サンタクロースに扮したライオンのおじさんのことをちゃんと覚えていてくれた様子（撮影強力：きぬ幼稚園）

読者から―4月号

■広く世界に目を向けて

「THEME：LCIF」で紹介されたような、世界的な奉仕活動に目を向けて行動するクラブに対し敬意を表します。地域に理解を求めて輪を広げ、市民を巻き込んだアクティビティとして継続している姿に感銘を覚えました。どこの国でも将来を担うのは子どもたちです。国境を超えて、子どもが輝けるよう力を貸す活動はとても大切なことです。このような記事を読むと、自分もライオンズの一員であることに誇りを感じます。特に若い会員の皆さんに、ライオンズの会員である意義を感じてもらいたいです。

青森うとうライオンズクラブ●本堂均

■写真から伝わるもの

今月号で最もインパクトを受けたのは、写真です。写真の質は別にして、この位の大きなサイズの方が、現場の臨場感が伝わってきます。長々とした説明文よりも、読者の理解度が上がるように思います。

東京三鷹ライオンズクラブ●向井忠義

■参考になったリポート記事

「クラブ・リポート」で宮城県・都城中央ライオンズクラブの「物故会員規定をクラブ内規に明記」に注目した。長年にわたりクラブに貢献されたにもかかわらず、死亡時に在籍していなければ「物故会員」の呼称を得られないという例は、どのクラブにも共通するものである。会員として長年真摯に奉仕活動に取り組んだ仲間が、やむを得ぬ事情で途中退会することがあっても、一定の要件を満たしていれば物故会員の呼称を得られるという規定により、どの会員も一生懸命奉仕活動に励むことになると思う。自分のクラブでもぜひ議論を深めていきたい。

宮崎県・高原ライオンズクラブ●末岡優

■例会で読み合わせを

毎号の「クラブ・リポート」は、各クラブが地域の状況に応じて創意工夫し、さまざまなアクティビティを展開されている様子が良く分かり勉強になります。例会で時間があれば、記事の読み合わせをするのも良いのではないでしょうか？ 特に今回、都城中央ライオンズクラブのリポートが非常に参考になりました。今後も、さまざまな課題や問題をクラブがいかに解決したか、という事例が読みたいです。

北海道・美唄ライオンズクラブ●牧野修一

●ライオン誌事務所来訪者芳名録

42 宮城県仙台青葉 平嶋 敬義
45 愛知県名古屋葵 藤井 義之

読者プレゼント

■岩手県山田町の甘露煮セット

今月のプレゼントは「被災地のライオンズは今」でリポートした岩手県山田町から。㈲木村商店（代表取締役・ライオン木村トシ／陸中山田ライオンズクラブ）の人気商品をセットにした「ぷち御膳」を読者5人にプレゼントします。木村商店は東日本大震災による津波で工場と店舗を流出。跡地に仮設作業所を建てて事業を再開し、昨年2月には新工場に移転して変わらぬ味を守り続けています。三陸の新鮮な魚介類を、添加物を使わずに丹精込めて手作りした「三陸のおふくろの味」です。

プレゼントをご希望の方は、はがきに「山田町」と明記して、氏名、クラブ名、住所、電話番号をご記入の上、ライオン誌プレゼント係までご応募ください。本誌へのご意見、ご感想もお書き添えください。締切は6月末日。応募多数の場合は抽選となります。

【宛先】〒104-0045 東京都中央区築地2-2-1 築地細田ビル7階 ライオン誌事務所
＊オンライン応募はライオン誌ウェブマガジン（www.thelion-mag.jp）の「ライオン誌日本語版」→「プレゼント応募」から。

〈56ページ クイズの解答〉第1問=b.／第2問=b.／第3問=a.／第4問=c.／第5問=b.

もう一度読みたい「あの記事」

●1987年3月号／5月号 特集：日本ライオンズの源流を探る

『ライオン誌』バックナンバーから、読者の皆さんにぜひもう一度読んで頂きたい記事をピックアップ。スペースの関係上、多少の編集を加えている場合があります。

「都道府県内 最古クラブ懐古談」

新潟ライオンズクラブ／沖縄ライオンズクラブ

「新潟大火の見舞金が機縁で」

浅川晟一（新潟ライオンズクラブ）

昭和30年10月1日、新潟市に大火があった。その時にはまだ、新潟にはライオンズクラブは無かった。これを知った日本で第8番目のクラブ、岡山ライオンズクラブの当時の会長ライオン原勝巳（元地区ガバナー）は、全国のライオンズのメンバーにげきを飛ばし、新潟大火に見舞金を贈ることを計画した。

岡山県と新潟県は遠隔の地にある。ライオン原は両県の関係を調べ、昭和12年から4年間、岡山県で検事をしていた林隆行先生（元地区ガバナー）が、新潟市で弁護士を開業していることを知る。早速電話をして、本人に間違いないことを確かめ、「実はライオンズクラブが新潟大火の見舞金を集めました。それをお届けに上がろうと存じます。その折、ぜひ新潟市にライオンズクラブを作って頂きたい」と、依頼した。

また、医者の社会に「医家芸術クラブ」があり、その新潟支部長の鳥居恵二・新潟大学名誉教授、幹事の仲村洋太郎医学博士にもライオンズクラブ結成を呼び掛けた。山陽新聞社社長の紹介状で新潟日報社長の坂口献吉氏に協力を求め、岡山県知事の紹介状で、新潟県知事北村一男氏の入会を懇請するなどして、昭和31年4月1日に、日本で第26番目の新潟ライオンズクラブが誕生した。

陰の援助者、坂口氏、結成当時の指導者、鳥居名誉教授に感謝したい。

「統治下のアクティビティ」

与那原良昭（沖縄ライオンズクラブ）

沖縄ライオンズクラブは1958年12月、会員68人のうち3割が外国人（アメリカ、イギリス、カナダ、オーストラリア、トルコ、フィリピン、インド、中国）という、当時の沖縄の姿を象徴するような構成で結成された。

その4年後の62年、熊本の新聞社が、廃墟と化した沖縄に緑をということで、ヤシ、イブキ類4千本の苗木を、沖縄ライオンズクラブを受け入れ先として贈ってくれた。

到着した港にはアメリカ人検疫官が待機し、全ての苗木の根を、ホースの先を圧縮して強い勢いで洗い流し、粉末薬をかけてしまった。私たちは、苗木が死ぬのではないかとかたずを飲んで作業を凝視し、処理済みを大急ぎで20キロ離れた県の苗圃に運び、薬品を洗い落として植えてもらった。

当初は生気もなく懸念されたが、県職員の養生で幸い全てが根付き、友情はよみがえった。そして、その後展開された緑化運動が、敗戦で荒れた県民の心を和らげてくれた。

今、100年も前に東南アジアから持ち込まれたウリミバエの根絶に、年間数十億円もかけている現状を思うと、当時の検疫官の処理は正解だったのかもしれない。しかし当時は、せっかくの友情にこんなひどい処理の仕方をしてと憤りに似た気持ちで、苗木が根付くまで悲嘆にくれたものだった。

ライオン誌例会のススメ
——次の例会ですぐ使える情報

何でも日本一

■スポーティーなクラブ

今回はちょっと変わったクラブ名を紹介。日本国内には名前にスポーツの種目名が入っているクラブが三つある。東京剣道ライオンズクラブ（鎌田正義会長／45人）、東京ゴルフライオンズクラブ（安本昌煥会長／11人）、3月にチャーター・ナイトを終えたばかりの大阪マザーVBライオンズクラブ（石岡節子会長／25人）。いずれもスポーツの結びつきから結成されたクラブだ。で、「マザーVB」って、いったい何？　答えはママさんバレーボール。ママさんバレーのチームを母体に生まれたクラブで、会員の中には「東洋の魔女」として活躍した金メダリストも。アクティビティではバレーボールの指導などを通じて青少年育成や地域貢献に取り組む計画だ。

この日・この月

1981年6月20日、創設者メルビン・ジョーンズ生誕の地であるアメリカ・アリゾナ州フェニックスで開催された第64回国際大会の閉会式で、村上薫が東洋人として初めての国際会長に就任した。就任あいさつの中で、村上会長は参加者に許しを求めた上、日本の会員に向けて日本語でこう訴えた。「諸君、皆さんが全員、会長になったつもりで、世界の期待に応えようではありませんか。そして、立派にその重責を果たそうではありませんか」。村上会長が掲げたテーマは「みんなできずこう和の社会（People at Peace）」。ライオニズムを通じて心の平和と国家間の和を追求しようと世界の会員に呼び掛けた。

今月号の記事から

THEME「メンバーシップ」（5～19ページ）では、エクステンションの成功例と世代交代をうまく進めているクラブの事例を紹介しました。自分たちのクラブの周辺に新たなクラブを作る可能性はないか？　クラブの将来を見据えて今何をすべきか？　議論してみてはどうでしょう。

★ライオン誌例会のノウハウを収めた「ライオン誌例会 開催ガイド」は、ライオン誌ウェブマガジン（www.thelion-mag.jp）「各種書式／ロゴ」の「ライオン誌関係」のページでダウンロード出来ます。本誌バックナンバーはEブック形式で公開しておりますのでご活用ください。

クイズ de 例会

〈第1問〉新クラブ結成に最低限必要な会員数は？
a. 15人　b. 20人　c. 25人

〈第2問〉クラブ結成から2年間、新クラブの指導、支援に当たるのは？
a. リーディング・ライオン
b. ガイディング・ライオン
c. ファイティング・ライオン

〈第3問〉クラブ支部の発足に最低限必要な会員数は？
a. 5人　b. 10人　c. 15人

〈第4問〉GMTが推進する、クラブの活力を高め、長期的な会員維持を図る取り組みは？
a. リテンション
b. エクステンション
c. クラブ・サクセス

〈第5問〉次の会員種別のうち、クラブの代議員数算出の対象とならないのは？
a. 終身会員
b. 準会員
c. 賛助会員

★回答は54ページ下

次号予告

LION

THEME **お国ぶり拝見 例会編**

多くのクラブが目指す「楽しい例会」。とかく形式的になりがちだが、海外のクラブはどんな例会を開いているのだろう？

ふるさと探訪 **北海道白老町**

町名の由来はアイヌ語の「シラウオイ」（アブの多い所）。アイヌの集落を再現した「ポロトコタン」などを訪ねる。

献眼登録・命のリレー

ライオン誌
日本語版委員
◉
組嶽晶一
（島根県・東出雲）

1925年のライオンズクラブ国際大会。幼い頃に視力を失ったヘレン・ケラー女史が訴えた言葉に、会場の全員が総立ちとなり拍手と歓声が上がった。

「ライオンズの皆さん、見える目を持ち、聞こえる耳を持ち、力強く勇敢で親切なあなた方にお願いします。ぜひ盲人のために暗闇と闘う騎士になって頂けませんか?」

その呼び掛けに、今も世界のライオンズが応え続けている。

57年、岩手県立盲学校に通っておられた菊池歌壽（かず）さんが岩手県立医科大学の今泉亀撤教授と出会い、亡くなられた方からの提供で角膜移植手術を受けられた。これが死体損壊罪に抵触する恐れがあるとの報道が、大きな議論を呼んだ。これを機に翌年、角膜移植法が制定され、菊池さんは合法的に移植を受けた患者第1号と認定された。

その菊池さんが2012年6月、山陽新幹線の厚狭（あさ）駅前にある「献眼をたたえる碑」の前に立たれた。山陽ライオンズ（クラブ）の40周年記念事業で建立されたこの献眼碑には、菊池さんが光を取り戻された時に書かれた詩が刻まれている。

日本のライオンズクラブは希望の光をつなぐ命のリレーのため、献眼推進活動に大きな実績を重ねてきた。開眼された方の体験発表には、愛の献眼の力で明るく広い場所へと導かれたことへの感謝の言葉がつづられている。その一方で、この事業の難しさも多く耳にする。いざ提供となると、気の動転も重なって思いもよらぬ抵抗もあるようだ。提供者発生の際、各クラブでは連絡網が用意されていると思うが、現実にはメンバーの提供者は少ないのが現状だ。私自身、ドナー登録をしていた母の意思を無駄にしてしまった。

私の家内は帰霊して8年。二人の方のお役に立ち、光の世界を届けさせて頂いた。角膜という小さな小さな一部分だが、家内がこの世に生き続けていることに安堵している。たくさんの方々が角膜移植を待っておられる。一人でも多くの方へ愛の光が届きますように。

Official publication of Lions Clubs International

Lions Clubs International Headquarters
300 W 22ND STREET OAK BROOK IL 60523-8842 USA
TEL.(630)571-5466 FAX.(630)571-8890
Web site: www.lionsclubs.org

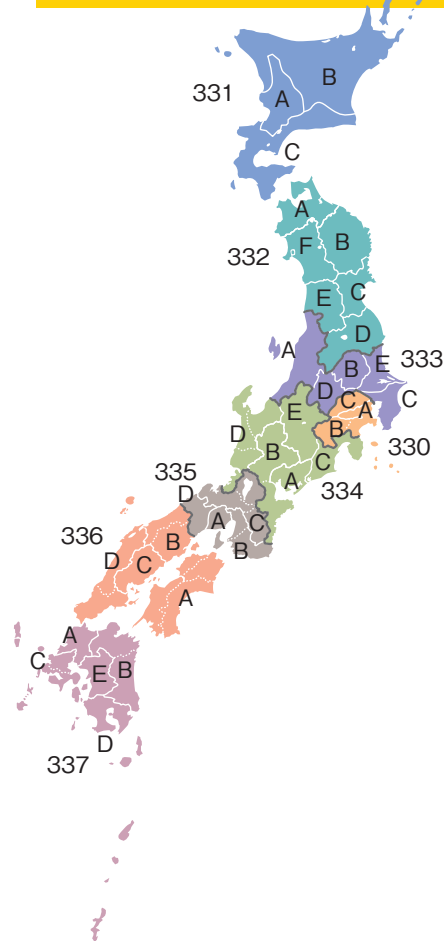
ライオンズクラブ国際協会の公認出版物であるライオン誌は、国際理事会の認可を得て次の20カ国語で発行される－英語、スペイン語、日本語、フランス語、スウェーデン語、イタリア語、ドイツ語、フィンランド語、韓国語、ポルトガル語、オランダ語、デンマーク語、中国語、ノルウェー語、アイスランド語、トルコ語、ギリシャ語、ヒンディー語、インドネシア語、タイ語

ライオン誌日本語版事務所
〒104-0045 東京都中央区築地2-2-1 築地細田ビル7階
TEL.(03)3542-9571(代)　FAX.(03)3546-2630
E-mail. edit@thelion.jp
Website: www.thelion-mag.jp

日本のライオンズ

2013.4.30　eMMR ServannA報告による

地区	都道府県	クラブ数	会員数	男性会員	女性会員	期首からの増減
330-A	東京	204	5,027	4,285	742	33
330-B	神奈川·山梨·東京	174	4,819	4,209	610	-95
330-C	埼玉	93	2,282	2,045	237	-23
330	計	471	12,128	10,539	1,589	-85
331-A	北海道（道央）	72	2,424	2,255	169	11
331-B	北海道（道北·道東）	89	2,467	2,337	130	15
331-C	北海道（道南）	53	1,801	1,608	193	35
331	計	214	6,692	6,200	492	61
332-A	青森	65	1,865	1,605	260	127
332-B	岩手	55	2,252	1,608	644	-5
332-C	宮城	76	1,569	1,268	301	28
332-D	福島	76	1,971	1,778	193	27
332-E	山形	58	1,847	1,645	202	37
332-F	秋田	49	1,357	1,069	288	75
332	計	379	10,861	8,973	1,888	289
333-A	新潟	77	2,830	2,519	311	7
333-B	栃木	53	1,465	1,079	386	-7
333-C	千葉	140	3,514	2,926	588	75
333-D	群馬	53	2,060	1,672	388	5
333-E	茨城	79	2,863	2,570	293	117
333	計	402	12,732	10,766	1,966	197
334-A	愛知	122	5,193	4,639	554	6
334-B	岐阜·三重	82	4,446	3,345	1,101	976
334-C	静岡	82	3,101	2,970	131	-6
334-D	富山·石川·福井	100	3,915	3,652	263	116
334-E	長野	52	2,017	1,785	232	34
334	計	438	18,672	16,391	2,281	1,126
335-A	兵庫（東）	93	2,250	1,931	319	-55
335-B	大阪·和歌山	181	5,548	4,852	696	107
335-C	滋賀·京都·奈良	120	3,931	3,603	328	55
335-D	兵庫（西）	66	1,930	1,716	214	12
335	計	460	13,659	12,102	1,557	119
336-A	徳島·高知·香川·愛媛	151	5,457	4,810	647	-14
336-B	鳥取·岡山	96	3,091	2,790	301	44
336-C	広島	101	3,407	3,199	208	6
336-D	島根·山口	99	3,197	2,966	231	66
336	計	447	15,152	13,765	1,387	102
337-A	福岡·長崎	116	4,555	3,959	596	204
337-B	大分·宮崎	73	2,337	2,164	173	26
337-C	佐賀·長崎	84	3,061	2,563	498	-27
337-D	鹿児島·沖縄	80	2,362	2,154	208	16
337-E	熊本	58	1,577	1,419	158	-24
337	計	411	13,892	12,259	1,633	195
総計		3,222	103,788	90,995	12,793	2,004
世界のライオンズの		6.9%	7.6%	8.8%	3.8%	

日本ライオンズクラブ分布図

世界のライオンズ

2013.4.30　国際協会集計

ライオンズ国または領域	207
世界のクラブ数	46,463
世界の会員数	1,369,664
※男性会員数	1,028,751
※女性会員数	340,913
期首からの増減	22,291

国	クラブ数	会員数	期首からの増減
アメリカ	12,085	341,496	-5,627
インド	6,238	230,494	14,319
韓国	2,106	82,371	1,016

ライオン誌6月号
昭和33年12月19日付第三種郵便物認可　定価180円　送料実費76円
2013年(平成25年)5月20日発行　毎月1回20日発行　第55巻第12号
発行所　ライオンズクラブ国際協会ライオン誌日本語版事務所　〒104-0045 東京都中央区築地2-2-1　築地細田ビル7階　Tel 03-3542-9571
印刷所　共同印刷株式会社

第96回ライオンズクラブ国際大会 - 7月5日～9日

ドイツ・ハンブルク